洞爺湖町議会令和3年12月会議

議事日程(第3号)

令和3年12月14日(火曜日)午前10時開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名について
日程第 2 一般質問について
日程第 3 諮問第 1号 人権擁護委員候補者の推薦について
日程第 4 諮問第 2号 人権擁護委員候補者の推薦について
日程第 5 諮問第 3号 人権擁護委員候補者の推薦について
日程第 6 諮問第 4号 人権擁護委員候補者の推薦について
日程第 7 議案第29号 洞爺湖町北海道営土地改良事業分担金等徴収条例の制定について
日程第 8 議案第30号 職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部改正について
日程第 9 議案第31号 洞爺湖町税条例の一部改正について
日程第10 議案第32号 洞爺湖町国民健康保険税条例の一部改正について
日程第11 議案第33号 財産の取得について(避難所用パーテーション)
日程第12 議案第34号 工事委託協定の変更について(洞爺湖町公共下水道虻田下水終末処理場他の建設工事)
日程第13 議案第35号 令和3年度虻田郡洞爺湖町一般会計補正予算(第6号)
日程第14 議案第36号 令和3年度虻田郡洞爺湖町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
日程第15 議案第37号 令和3年度虻田郡洞爺湖町公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)
日程第16 意見書案第12号 入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書(案)について
日程第17 意見書案第13号 石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書(案)について
日程第18 意見書案第14号 後期高齢者の年収200万円以上の医療費窓口負担2割化を中止し、「原則1割」の継続を求める意見書(案)について

本日の会議に付した事件

日程第1～日程第18まで議事日程に同じ

出席議員（12名）

1番	越前谷 邦夫 君	2番	大久保 富士子 君
3番	篠原 功 君	4番	大屋 治 君
5番	立野 広志 君	6番	五十嵐 篤雄 君
7番	千葉 薫 君	8番	今野 幸子 君
9番	下道 英明 君	10番	石川 邦子 君
11番	板垣 正人 君	12番	大西 智 君

欠席議員（0名）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	真 屋 敏 春 君	副 町 長	武 川 正 人 君
総務部長	佐 野 大 次 君	経済部長	若 木 涉 君
洞爺総合支所長	高 橋 秀 明 君	総務課長	高 橋 謙 介 君
危機管理室 長	仙 波 貴 樹 君	税務財政課 長	藤 岡 孝 弘 君
住民課長	後 藤 和 郎 君	健康福祉課 長	高 橋 憲 史 君
健康福祉センター長	末 永 弘 幸 君	観光振興課 長	田 仁 孝 志 君
産業振興課長兼新型コロナウイルス特別対策室長	原 信 也 君	環境課長	佐々木 勉 君
上下水道課 長	篠 原 哲 也 君	庶務課長	兼 村 憲 三 君
農業振興課 長	片 岸 昭 弘 君	洞爺湖温泉支所長	金 子 信 之 君
会計管理者	金 子 真 優 美 君	教育長	皆 見 亨 君

管理課長	天	野	英	樹	君	社会教育 課 参事	角	田	隆	志	君
社会教育 課 長	野	呂	圭	一	君	代表監査 委 員	山	口	芳	行	君

職務のため出席した者の職氏名

事務局長	佐	藤	久	志	書	記	阿	部	は	る	か
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

庶務係	木	村	暁	美							
-----	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

◎開議の宣告

○議長（大西 智君） 皆さん、おはようございます。

現在の出席議員は、12名であります。

定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎会議録署名議員の指名について

○議長（大西 智君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、会議規則第120条の規定により、2番、大久保議員、3番、篠原議員を指名いたします。

◎一般質問について

○議長（大西 智君） 日程第2、一般質問を行います。

今日は、1番、越前谷議員の1名を予定しております。

1番、越前谷議員の質問を許します。

1番、越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） 1番、越前谷でございます。

ただいまから、通告いたしました案件について質問させていただきます。

今回は1点ということで、洞爺湖町の総合成長戦略について伺っておきたいなと思います。

質問に入る前に訂正をお願いしたいなと思うのですが、この1番目の目に見えないコロナとの戦い、これは戦場の戦ではなくて闘牛の闘でございますから、訂正方お願いを申し上げたいなと思います。

毎回申し上げておりますが、一般質問というのは政策論争の場であるわけですが、今回の質問の案件上、具体的な細部にわたっての質問もあろうかと思いますが、その点について、あらかじめご理解とご了承を賜りたいなと思います。

今日は12月14日ということでございまして、忠臣蔵の討ち入りがあった日であります。これから真屋町長と一問一答で質疑をさせていただくわけですが、私は人間性からいって、あるいはまた日頃の言動・行動からいって、吉良上野介だろうかと、真屋町長は大石内蔵助になるのだろうかと思っております。

私は本題に入る前に、一言、町長の見解を伺っておきたいなと思います。それはどういうことかという、今回の一般質問などの質疑を聞いていると、昭和40年代から50年代全般の旧虻田町議会時代の、そういう行政と議会との切磋琢磨の環境になっているなと思って、これは本当にいいことだなと。常にやっぱり行政と議会というのは、切磋琢磨でなければならない。チェック機能機関として、議会は議会なりに使命を果たさなければならない。これは当然なことだなと、すばらしいなと思って聞いておりました。

それで、人間ですから感情的になるのは十分理解できます。ただ、昨日の質問の中で、町長の答弁の中で、いわゆる入江・高砂貝塚のこれからの運用の在り方等々を説明したときに、11 番議員に対して、一会派が随分一生懸命やっている、これ会派名も言っているのですが、一生懸命やっている、この答弁には、私の越前谷と言われている優しい越前谷も、これはちょっと問題発言だぞと、今まで私は曲がりなりとも真屋町長を指示してきた一人だと思っております。今回の一般質問の中で、同じ質問を 8 番議員も述べております。にも関わらず、一会派だけが一生懸命やっているということはどういうことなのか。本当に私は憤りを感じております。12 名全員の議会議員の方々も、入江貝塚・高砂貝塚が世界遺産に認定されるためにはどうあるべきかということで、いろいろな角度から議論をしてきた。そして、助言するところは助言する、あるいはまた改革するところは改革するという、そういう姿勢で 12 名の議員の方々がそれぞれ声を出し合って世界遺産になる、そういう環境づくりにも努力したはずで、にも関わらず、一会派だけが一生懸命やっているということは、いささか私もこの答弁を聞いて、いやいや、今日の町長は何だよと、それから今回も 10 日から一般質問に入ったわけでありすけれども、その答弁に感情的になるのは人間だから分かる。行政の長としても、言われて言われて我慢しなければならないところもあるのだなと思って、私はそういう面では理解をしている一人でありすけれども、昨日の答弁だけは私は承伏できない。

もし、今日、朝一で町長から発言を求められているということで、昨日の答弁を訂正、謝罪するということになるのではないかなと期待をしておりました。しかし、そういう動きもない。私は、これから町長の昨日の答弁に対しての見解を伺うわけでありすけれども、その見解いかんでは、今日の一般質問は私は止めます。そういう思いで私はこの場に立っているわけでありすけれども、先ほど言いましたように、今まで曲がりなりとも私は真屋町長をこの数年間支持してきたつもりであります。その自分が怒るのですから。応援している人というのは怒る、これ当たり前だ。それで昨日議会終わってから朝も電話入りました。オンラインでネットを見ている方々が、ああいう答弁でいいのかと、ちょっと考えものだなと、こういう電話もありました。町長、今一番大事なときではないのでしょうか。

したがって、昨日の答弁に対して、町長、議事録にも載っておりますし、謝罪をして取り消すのか、取り消して謝罪するのか、その姿勢いかんによっては、私は今日の一般質問を止めます。お願いいたします。

○議長（大西 智君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 昨日 11 番議員のほうから、入江・高砂貝塚に関わる内容等々のご質問があり、その席におきまして、私の答弁の中で、洞爺湖町議会各会派ある中で、何々党だけは特に支援をしていただいていたという発言をさせていただきましたが、考えて見ますとこれは不適切な発言で、大変申し訳ないことをしてしまったなど、それで改めておわびでございますけれども、これまで入江・高砂貝塚が世界遺産登録になるまで、本当に長い年月がかかりました。これまで洞爺湖町各議会会派、そして議員各位のそれぞれの立場から、い

ろいろな面でご支援、ご指導、そしてご協力、また提言もいただいていたところでございます。これまで本当に多くの皆さんに、議員各位にいろいろご支援をいただき、それをまた地域住民の皆様が後押しをしていただいて、今回この世界遺産登録まで結びつけたということに対しまして、本当に昨日の発言は不適切であり、心からおわびを申し上げ、できることであれば、議会議事録の修正をお願いしたいというふうに思っております。

これは昨日も帰りしなに、議員のほうからもこれは間違っているよねというふうなことが言われております。本来であれば、今日の朝一番におわびしなければならぬところを、ただいま1番議員のほうから説明があったとおりでございまして、それは何と申しましても私の不徳のいたすところではございません。

皆様にご迷惑をおかけして、本当に申し訳ありませんでした。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） 今の町長の答弁を聞いて、自分も曲がりなりともの支持が戻るか戻らないか、今日の答弁にもよると思っておりますけれども、分かりました。そういうことならば、やはり通告をいたしました案件について、質問させていただきたいなと思います。それで、町長、自分が耳が悪いせいか、どうも最近このやったせいか聞きづらいのです。だから、怒っても構いませんから、大きい声で答弁お願いできればなと思っております。

そこで早速入らせていただきたいと思うわけですが、いわゆる来年1月15日で日本でこの新型コロナウイルス感染症の感染者が確認をされて、判明されてから早2年になるのです。この2年間というのは、目に見えないコロナとの闘いは、どの自治体も余儀なく送っているわけでありまして、同時に住民の方々も国民の方々もコロナ感染症を感染したなら大変だと、自分の家族にも友達にも移したら大変だということから、それぞれ住民の方々も努力して国民の方々も努力して、今、何とか感染減少にあるわけですが、ただ、残念なことに、外国で約65か国になるわけですが、オミクロンという新しいウイルスの株が発生いたしまして、イギリスでは死者も出たと。昨日はイギリスでは約4万6,000人の感染者、日本でもやっぱりこのオミクロンのウイルスによって、感染された方が17名ということでもあります。もっともこのオミクロンが分かることは、一つ感染力が強いということでもあります。重症化になるかならないかは、まだ一定の期間を持ちながらいろいろな検査をしなければならぬということのようではございますけれども、そういう極めて厳しいオミクロンというウイルスも発生をして、また、国民やら住民の方々に脅威を与えている昨今であるわけでありまして。

今、どの自治体も令和4年度の予算編成に入っているだろうと思っております。この2年間のコロナでどの自治体も税収減は免れない、そういう環境にあるのではないかなと思っております。

洞爺湖町も予算編成に苦慮しているのだろうなと思ったら、来年は町長選挙もあるだけに、概算予算になるようではございますが、いずれにせよ、どういう予算編成でこれから洞爺湖町の輝かしい未来へと歩いていく、そういう予算編成というものを、私自身期待しているところ

であります、特に先ほど申し上げましたように、コロナによって非常に社会全体が傷ついてしまった。傷がついたこの社会をどう従来の軌道に乗せるべきかということは、どの自治体においても試行錯誤の連続だと思うのです。そういう試行錯誤の中で、これからもやはり「北海道スタイル」、新しい北海道のスタイルであるとか、あるいはまた生活様式の変革であるとか、あるいはまた3密回避を執行するとか、そういう従来どおりの対策やら、目に見えないウイルスとの闘いを勝ち取るために、鋭意努力をされているだろうと思うわけであります。

洞爺湖町におきましても、社会全体が本当にコロナによって傷ついてしまった。何とか従来のような社会環境になりはしないかなということは、当然行政としても一生懸命やっているのは私も認める。住民の方々もコロナに感染しないように努力されている、その熱意というものを私は十分理解しているわけであります。傷ついたこういう社会全体から脱却をしなければならぬ。だとするならば、従来のようなまちづくりもしかりでありますけれども、この社会変革になった地域をどう発展させていくのかというのは、これから大変な使命感に燃えなければならぬ。いわゆるどういう社会を建立するかという、そういう成長戦略というものを考えていかなければならぬ。その成長戦略の概要というのはいくつものか、それから、今、洞爺湖町で町長自らが思っている課題というの、どういう課題があるのかと、少なからずやはり5年先、10年先の将来像であるとか、あるいはまた社会像を描いて、住民にも協力できるものは協力していただきたい、しかしながら、皆さん方が安心・安全に生活できるような、そういう社会というものを行政は全力投球上げて守っていくことにご協力いただきたいというような、住民に対しての呼びかけというものもどう考えているのか、町長の答弁をお願いしたいなと思っております。

○議長（大西 智君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 私が平成22年4月に町長に就任させていただいた折、まず、私どもの町にはそれぞれ産業団体がありましたが、特に観光産業を中心として、農業、漁業、これらが小さい町ではありましたが、一応曲がりにもそこそこの活動をやっていて、それをさらに発展させなければならぬということを目指してまいりました。

観光産業においては、一時期度重なる噴火災害、そして日本国内で起きた大きな自然災害等々で、観光客が一時期40万人台まで年間宿泊者が落ちてしまっていたと、これを何とかしてもう少し底上げをしていかなければならぬだろうと、そのためには、やはり基盤をもう少し整備していかなければならぬだろうと。一つには、インバウンドのお客様が非常に多く泊まっていたので、洞爺湖温泉街にあります、特に遊歩道沿いにあった屋外の公衆トイレ、こちらほうを和式の便器から洋式の便器に変えていこう、そして先ほど申しました外国の方がよくお見えになる、また日本の道外からのお客様、道内のお客様も来ていただける、私どもの地域にはすばらしい景観の洞爺湖、そして背に有珠山、さらには洞爺湖中島、こういうものがあります。これはもうかけがえのない財産だなというふうに思っております。

その中で、昭和52年噴火災害で相当の噴石物ができた。それを遊歩道ということに事業転換をして、遊歩道沿いに公共のトイレも設置させていただいたと、このところにWi-Fiを整備できないかということで、1.8キロWi-Fiを整備させていただいた。屋外でWi-Fiが整備できたと、これは行政だけではなくて、やはり地域の皆様の声を聞かせていただいて、この地域に何とか寄与できるようなものにしていきたい。そのWi-Fiもいま現在は大通り線、こちらのほうまで整備をさせていただきまして、洞爺湖に来たら外でWi-Fiが開けると、いま現在確か3.2キロほど整備が整っているかなというふうに思っておりますが、そういうものも整備をさせていただいた。そして、先人・先輩の方々に築き上げていただいた洞爺湖一周のぐるっと彫刻公園、こういうものも再整備をしながら、さらには洞爺地区におきましては、美術館、これらもすばらしい事業を展開していた。残念ながら町の財政的事情によって、平成19年これで一応事業は今中断というふうな形になっておりますが、その作品の展示方にしても、今まで2,000人ぐらいの来館者しかいなかったものが、今、一生懸命指定管理者からまた直営に戻りましたが、年間4,000人を超える来館者があって、多くのファンができてきたと。そういうことから、やはり、観光産業をしっかりとこれからも支えていかなければならないなど、おかげさまで懸案でございました中島の森林博物館もようやく解体して、新しく中島・湖の森博物館が誕生いたしました。

こちらのほうにつきましては、この火山との共生する地域、この火山の歴史、そしてジオパークになっているいま現在の状況、さらには新しく世界遺産として縄文遺跡群が私どもの地域にできたということ、その中島に行って体験していただこうと、そして、中島を散策していただけるような整備もこれからやはりしていかなければならないだろうと。以前から整備しておりましたウッドチップス等々については、このあいだ議員のご指摘のありました大分疲れてきている状況にあるということから、やはり再整備をしていかなければならないだろうというふうに思っております。

その観光客が来るときの表玄関になる洞爺駅に、エレベーターを設置させていただきまして、これは観光客のみならず、地域に住む方々が何とかそのエレベーターを利用できるような体制、特に私どもの町は高齢化率が40%を超えて42%近くまできている状況がございます。年々やっばり年をとっていくということから、足腰が大分弱まってくる、そこに荷物を持つと、どうしても階段の昇降が厳しい状況になるということから、そこにエレベーターを設置させていただいて、地域住民の皆様の足の利便性も確保して、なおかつ観光客の皆様にも利便性を保っていただこうと。そして、何と言っても今、洞爺湖温泉の大通線、こちらのほうも非常に混雑していたということがございました。公安委員会の方とも協議いたしまして、ただいま法定速度を40キロから30キロに変更していただきました。車の交通量、特にゆっくり洞爺湖温泉の中を走っていただく、そして周りの景観、ホテル、旅館あるいは土産店、これを楽しんでいただこうと、まず、土産店もそうですし飲食店もそうですございますが、車をゆっくり走らせて、その折に今まで不便だった歩道のインターロッキングを今、カラー舗装にさせていただきまして。それと車道部も路側帯をちょっと広めに取らせていただいて、

車はこのある一定の距離感で走っていただく、そういうふうな体制づくりも着々と準備を進めているところでございます。

そして、農業、漁業になりますが、農業につきましては、ある程度の基盤整備、長いも選別機、ジャガイモ選別機、ニンジン選別機、そして雪蔵に伴って貯蔵施設の増設、あるいはその収穫したものを荷さばき場に持っていくためのいわゆるコンテナの増設、こういうものと同時に、今、洞爺の農業に関しましては、若い方が連作のきく、あるいは緑肥対策もできる小麦、これを何とか作っていきたいということから、小麦乾燥機、あるいは小麦畑の増設等々で、若い方も一生懸命頑張っておられ、農業の生産向上につながってきているというお話を聞いております。これをさらに今これからデジタル化社会、機械化社会にも恐らくなっていくでありましょう。それらにもやはり対策を講じていかなければならないだろうというふうに思っております。

そして漁業でございますが、3年続いたへい死問題が4年間続くのではないだろうかということで、危惧をしておりました。ここにきまして、令和3年度でございますが、今のところホタテの稚貝が順調に成長過程に入っている、ただ、以前のような年間4,000トンペースで、いわゆる水揚げがということになるとなかなか厳しいものがありますが、いま現在3,500トンぐらいまでは水揚げができそうだと。ただ、これも自然現象いわゆる海水温の上昇ですとか、気象状況によってはなかなか困難になる場合もあるようでございますけれども、漁師の方々もホタテの稚貝を今までとは違うやり方で、丁寧にそして優しく稚貝を扱おうと、そうすることによって稚貝のストレスが低減され、いい成貝になるやもということで、今年から特にその稚貝の成育にも力を入れていただいた。今までザラボヤあるいはフジツボ、そして線が走るような虫に大分むしばまれてきたようでございますが、ここにきてその状況も大分変化しつつあるということで聞いております。

そんな中、ホタテだけではやはり大変なるやもということで、磯周りの漁業にも力を入れていこう、今までウニの放流、あるいはアワビの小さいやつですけれども、何か放流試験的なこともやったようですが、なかなかうまくいかない、そこで、ナマコの漁礁を今年やらさせていただきました。特に漁師の浅海部会の方々是非常にそれを楽しみにし、そして大きな期待も持っていらっしゃるという、こういうものはしっかりやっぱり守っていかなければならないだろうと。

漁業に関しましても、沖洗い機ですとかあるいは船上げ機ですとか、いろいろな面で漁協あるいは漁師の方とお話し合いをして、今ここまで来たところでございます。ただ、これはまだまだこれからも続けていかなければならないだろう、この町の発展のためには、さらにもう一步踏み込んだ、以前から問題となっておりました洞爺地区の再開発とでもいいでしょうか、洞爺地区にはすばらしい自然が残っております。以前からお話のありました、今のいこいの家、あるいはサンシャイン跡地、ここの問題をしっかり整理しながら、洞爺にもっともっとお金の落ちる、農業では十分な収益が上がっているというふうに理解しております。また米、こちらのほうにつきましても、非常に皆さん研究熱心でおいしい米を作ろうと、

その販売ルートもいろいろと拡充してきているということで聞いておりますので、こちらのほうにつきましては、さらにその成果が出るようなものを支援してまいりたい。

そのためには、畑を良くする、そして水回りを良くする、そういうことを多目的事業として今やらせている。こういうことが今までの状況でございましたけれども、そういうことをさらに前進することによって、この自然豊かな地域をさらに魅力ある地域として地域の皆様のご協力をいただきながら、観光客の増加、関係人口の増加に結びつけていきたい、そういうふうな施策を考えているところでございます。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） 町長、20分の答弁、朝が朝だから、町長の戦略にはまってしまったなと思って、用意した質問は全部できないのではないかなと思っている次第であります。

町長、一番は自分はやっぱり今のこの傷ついた社会から、どういう策を講じながら脱却していくのかというその辺を聞いたのであって、今、答弁されたのは、もう去年あたりも聞いている答弁内容だなと思って、残念に思っております。

一言だけ言っておきたいのですが、やっぱり今、基盤整備と言いました。今、洞爺湖町に特に基盤整備で重要なことは、職員とのコミュニケーションを深める基盤整備というのが、一番大事だなと思っています。それで、以前から私は何度もこの席上で申し上げておりますけれども、職員というはまちづくりの基礎なのです、基礎。その基礎って、今日こちらにいる方々はまちづくりのプロ集団です。だから、今回のような不祥事が起きるということは、極めて極めて残念でならないのですけれども、ただ、不祥事を起こした方々も人間です。

ご存じのように、創作作家の故相田みつをさんという方がおりました。この人の人間だものというような一説の中で、こういうことを述べております。「つまづいたっていいじゃないか、人間だもの」と、私は人間だからつまづくこともあるのでしょうし、今日この会場にいる方々全員といたら怒られるかも分かりませんが、どなたでも小さな過ちはあると思っているのです。これ、歌謡曲の一節にもあるのです。

私は、今大事なことは、町長、この町長と職員とがコミュニケーションを深めて、一つの心になって安心・安全なまちづくりを進めていくために前進をするのだという、そういう情熱感が必要だと思っているのです。今テレビでも歌っておりますように、「ほうれんそう」という報告、連絡、相談です。どの企業体でもこれは全うしております。それから、ツボミ、ツール・ボックス・ミーティングとあって、毎日夕方そういうミーティングを図るということも大事ではないのかなという気がします。

それから、事業所単位では点呼もやっている。ところが、私以前から思っていて、いろいろな機会でも申し上げたこともあるのですが、職員が登庁すると、役場へ来ると、もうパソコンとにらめっこですよ。これでは課職員同士のコミュニケーション全然とれない思っ、心配している一人です。そういうことでないのかも分からないけれども。

それからもう一つ、人事異動が問題だという人もいます。意識の低い方々がそろったからだとか、集まったからだとか、これは違います。人事異動がどういう配置転換があるにせよ、

職員というのは守秘義務もあるし、服務規程は守らなければならない。当然のことです、これは。だから、必ずしも上層部だけの責任ではない。もう少し職員も意識改革、意識変革をして、洞爺湖町八千何百人の命と暮らしを守るために、一生懸命努力していくんだというような、そういう意識変革をする機会をぜひ設けてもらいたいなと思っております。

故津島孝且という方がいました。聞いた人もいるだろうと思いますけれども、これは社会党の参議院議員であった方です。この方がどういう名言を吐いたかという、私も忘れていませんが、「ずってものはっても勝たねばならぬ」と、ずってものはってもやる気のある職員を育成をしていかなければならない。このことをぜひ、町長にこれから取り組んでいただければなと思います。

時間の関係上、先に進みますけれども、今、100代目の岸田内閣総理大臣が誕生いたしまして、社会の多様化とって、いろいろな社会の多様化があると、そこで大きな骨格は新しい資本主義をつくるんだということのようであります。いわゆる成長と分配の好循環とって、もうけたのは労働者にも還元しますよと、そうしなかったら、日本の社会そのものが衰退していつてしまうという、そういう懸念の中から出ているようでありますが、成長した果実を分配すると、そのことによって消費喚起をするという、そういうことを次の成長ということで、次の次代に何とか反映できるような環境を整えなければならないということで努力しているようであります。

併せて、地方が元気にならなければ国益にもならない、国も元気にならないのです。地方が良くならなかつたら駄目なのです。そういう社会というものをぜひつくり上げていただきたいのと、私は以前から申し上げておりますように、これから生活をしていくためには、何と言っても共生社会です。協力し合って寄り添っていく社会です、これからは。したがって、遠い親戚よりも近くの他人という言葉もありますけれども、そういう姿勢でやっぱり住民の方々と一緒にこの共生できる社会というものをつくりあげていただきたいなと思っております。

時間の関係上前に進みますが、この洞爺湖町には、いわゆる非常にまちづくりの資源があります。そして、特に洞爺地区というのは風光明媚なところで、いろいろ洞爺地区をどうそれこそ繁栄させていくかで洞爺湖町の岐路も変わってくる、線路も変わってくるという気がしてならないのであります。洞爺地区の魅力のある社会をどうそれこそ発展させていく、前進させていく、そういう戦略をどう考えているのかなということで、町長の見解を求めたいのであります。洞爺地区には洞青寮もあります。いこいの家もあります。三樹園もあります。これ三樹園については通告していませんから、具体的にわたっての質問は避けたいと思いますが、洞爺地区の振興策の展望といたしまして、やはりこの洞青寮が閉鎖して、答弁いただくと長くなりますから、28年3月31日に閉校になっているのです。そして平成30年に修繕を実施しておりますね。壁、屋根、この修繕費は約1,400万円。閉鎖から3年たっているのです。この閉鎖から3年たつて、長くなればなるにせよ配管等の腐食が進んで、いざとなったら大改修しなければならないようなこともあり得ると思うのです。したがって、私

は何と言っても洞青寮の利用の在り方というものを、やはり速やかに打ち出す必要があるのではないかと。そして、私は誘導質問でこういう質問させていただきたいと思うのですが、温泉中学校の体育館も平成 28 年閉鎖になって、そのままになっている。あの温泉中学校の体育館もかつてはオリンピックが来る、外国人選手の合宿もしてもらって、そして外国人の選手あるいはそういう関係者の方々に洞爺湖温泉に泊まってもらう。こういう発想もあって、そういう声もあってあの体育館も今なお残っているけれども、もう 3 年も方向性が出せないで、そのまま眠っているような状態で、これは当然普通財産でありますけれども。

私は昔の人はいいことを言ったなと思うのは、いろいろそういう施設なども抱え込んでしまって、そのまま放置しておいたならば、昔の人は何と言ったかということ、宝の持ち腐れだと、こういうことになりはしないかなという心配をしているのです。それで、私自身の利用価値の展望といたしまして、先ほど町長も申し上げているように、いろいろな基幹産業がある。観光、農業、漁業もある。そのほかもあると思うのですが、そういった産業の方々が携わる、あるいはまた研修施設として温泉中学校の体育館とこの洞青寮を連携をしながら利用を高めるような、そういう方法はとれないのかなという、そんな思いを持っております。簡単なことは、NPO 法人なんか立ち上げてもらって、その NPO 法人でいろいろと施設の方向性だとか管理だとか、そういったことを考えてもらえたらどうなのかなという、そういう思いを持っている。

それから、いこいの家であります。これは町長の令和 2 年 6 月会議の中で平米数も聞きました。時間の関係上、私は大体分かっているから聞かないのですが、ただ一つだけ、売却予定価格は 4 億円と言われている。これも間違いないだろうかと、後で簡単な答弁をもらいますけれども、当時町長の令和 2 年 6 月会議では、新型コロナウイルスの関係で覚え書きを結ぶのにも時間がかかっているんだと、こういう答弁をされています。それから、相手先は小葉だと言われている。それで小葉とともに洞爺地区の開発に携わっていければなと思っておりますと、こういう答弁をされているのですが、覚え書きは結んだのだろうか。コロナだからまだ結ばないということにはならない。今のデジタル化の、この自分でさえ分かっているオンライン何とかを使えば、いくらでも相手方のオーナーだとか社長とも連絡取り合って、いくらでも覚え書き結ぶのなら結ぶことができる。そして、このいこいの家の周辺の開発行為というのは、小葉にした場合には、壮瞥地区のホテルが先なのだと、そしてあそこが終わったら洞爺地区のいこい荘の売却された……

○議長（大西 智君） 越前谷議員、いこいの家です。

○1 番（越前谷邦夫君） いこいの家、ごめんなさいね、ありがとうございます。

いこいの家周辺にホテルを建てるのだと、だとするならば、今、第 2 期まちづくりが進められてもう 2 年か 3 年たちます。そうすると、覚え書きを結んでいるかどうか分からないけれども、この外資系を含む社会情勢、経済状況の中では、覚え書きを結ぶか結ばないか、結んだとしても壮瞥のホテルを先にやるとその後だということになると、どんどん第 2 期まちづくりも後ろに行ってしまうのではないですか。遠ざかってしまうのではないですか。

がうまくいかず、できなかったということがございます。その後、公売という形で入札を2回ほどやっておりますけれども、それも2回とも不調に終わっていると。その後数社の企業などからお話をいただいているのですけれども、なかなかコロナの影響もあって活用には至っていない状況にあると。あの建物については当然洞爺地区の中心にあり、重要な施設であるというふうに思っております。このまま使われずに朽ちていくということが一番止めなければならないものであるというふうには認識しておりますので、有効利用に活用されるよう価格面とか使用方法など、そういったような条件も見直ししながら取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） 本当、時間ないってつらいもんだな。それでは、次に進めさせていただきます。

洞爺湖観光の在り方で、先ほどから申し上げているように、戦後最大の経済危機だと。それで、冷え込んでいる経済をどのように元に戻すのかという、そういう策が今極めて重要なのです。北海道段階も新型コロナウイルス感染症拡大で北海道も大きな打撃を受けたということで、実は北海道観光振興機構というのがあって、その推計によると、2020年度の前年対比は約1兆円以上、観光消費が減少したということになっているのです。大きな打撃を受けているわけですが、洞爺湖温泉ではこの観光消費というものは、どのくらいであるかというそういう整理をされているのか。去年のことですから、まだされていないということはないと思いますけれ、その辺いかがでしょうか。

○議長（大西 智君） 若木経済部長。

○経済部長（若木 渉君） 今、ご質問ありました影響額のお話でございます。

観光事業者の影響といたしましては、宿泊客の入り込みの影響が出始めた令和元年と比較しても、令和2年度で約39万4,000人の減で59億1,781万5,000円の損失となっているほか、今年度上期4月から9月だけの宿泊客だけでも266万2,000人の減で39億3,145万円ほどの損失となっております。宿泊関連だけでも98億5,000万円ほどの影響が見込まれてございますので、これに観光に関連する飲食店、土産店、遊覧船、貸しボート等の観光施設等への影響まで加えますと、総額で130億円以上の損失が出ているというふうに見込まれてございます。関係事業者の皆様方におきましては、危機的な状況を迎えていると認識しているところでございます。

以上でございます。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） 今、経済部長が答弁されたように、全体の観光消費、約130億円ということでございます。これはこの小さな町の産業では、相当な打撃だという受け止め方をしなければならない。

今、北海道においてこの観光というのは、いわゆる幅広い多様な産業に消費できるという

ことで、消費効果をもたらす地域の観光というのは、大きな総産業であるという受け止め方をしております。それで、北海道では感染状況を真剣に慎重に見極めながら、どうみん割であるとかG o T o イートであるとか、あるいはぐるっと北海道といった、飲食や観光などの需要喚起策を講じているのです。段階的にこれから実施されてくるだろうと思うのですが、道そのものもそういう対策を講じようとしている。私は、少なからずやこの観光産業をもっともっと飛躍させる方向で、財政が厳しいからといったらそれに尽きるのだけれども、町独自のこういう総産業に対するある程度の助成というのはできないだろうなと思っているのですが、結論からいけばできないという答弁が返ってくるのは目に見えているですけれども、ただ、函館市あたりは1月から実施をするようでありますけれども、宿泊半額にするというのです、函館市は。宿泊されたら半額は市で助成すると、こういう取組をしている市もあるわけでありますけれども、洞爺湖町においてはちょっと無理だろうなと思うのですが、その辺どういう見解なのでしょう。

それから、この需用低迷で大きな影響を受けている生産者をどう救済するのか、飲食店等々をどう救済するのか、あるいはまた飲食を取り扱っているそういう商工業の人たちをどう救済するのか、ということを考えて、いわゆるその業種の方々を応援するために、これ知っている方はいるだろうと思うのですが、「今こそ食べよう！北海道」ということでキャンペーンを展開しております。我々何ができるのよと思ったら、生産者だとか飲食店だとか、あるいはまたその取扱店を応援するために、北海道の物産を一人1個でもいいから買っていただきたいと、この正月近くになる時点で。そのことによって、疲弊している事業所を救済できる、支援できると。これからお歳暮なども出るでしょう、そういうときにこそ北海道の食、そういったものに協力できるような体制を構築していただきたいということでもあります。

それで、これからの観光をどう盛り上げていくのかということ、アドベンチャートラベルとっていわゆるキャンプであるとかボート、ヨットであるとか、そういったところをもっともっとやはり利活用できるような環境を整えておくことによって、これからの観光客のニーズとしてそういう方向に展開しつつあると。だとするならば、洞爺湖町というのは海あり山あり湖あり、これだけ条件整っている地域はあるのでしょうか。恐らく町長もどこかに行ったならば、もう自信を持って、我が町は海あり山あり湖ありの町だぞというようなことはコマースとして実施をされているのではないかなということでございます。

そこで、誰かご存じでしょうか。過疎の疎というのは、どういう意味を持っていますか。

○議長（大西 智君） 高橋総務課長。

○総務課長（高橋謙介君） 過疎の疎とは、まばら、粗いという意味を持っているというふうに理解しています。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） さすが総務課長です。そうです、まばらとか粗いとかって。

それで、北海道にはこういう膨大な農業を離農したそういう場所もあるということで、それは裏を返せば、洞爺湖町のふるさと納税の返礼品で一番人気のあるのはトウキビだと聞い

ています。このトウキビは飛行機の燃料の源なのです。したがって、我が町はいち早く次代を担うという経済環境というものを展望する中で、何とか生き延びていく方向でそういうトウキビの生産を高めるとか、そういう手法にぜひ取り組んでいただければなと思うと同時に、先ほど言ったように、アドベンチャーといっていわれる自然の中で様々な体験ができる、様々な活動ができる、そして異文化を体験できると、文化も体験できると、この資源というのは、よその町よりもあるのではないのでしょうか、洞爺湖町は。昨日、おとつといろいろ議論になっているジオを、あるいはまた入江貝塚・高砂貝塚、この縄文文化というものを、もっともっと目の映えるような、そういう策を設けることが重要であると思っているのです。今、芽が出てきた。昨日もありました。これだけで終わるんじゃないって、そのとおりなのです。だから、そういう入江貝塚にせよ高砂貝塚にせよ、あるいはまたジオにせよ、そういった資源を、その芽をどうそれこそ花を咲かせるか。そういう戦略に洞爺湖町はぜひ積極的に取り組む必要があるのではないかなと思うのですが、町長、走りがちで質問させてもらいましたけれども、そういった考え方で、これから簡単に、傷ついた観光産業あるいはまた商工業等々と含めて、どういう戦略で前のような環境を取り戻すのかということ、ぜひ簡単にお聞かせ願えれば。

○議長（大西 智君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 先ほど来、お話出ております、私どもの町には観光資源がたくさんあります。その中でも特出的な世界の冠をつけた遺産が二つほどあります。ジオパーク、あるいは縄文遺跡、それぞれの異なった世界遺産でございます。

今、所管課のほうでは、それを広く地域の皆様、そして町外、さらには国内の皆様、飛行機が飛ぶようになったら、行き来できるようになったら海外のお客様、そちらのお客様にもご案内できるよということで、今いろいろなすごい工夫をし、整備を凶っているところでございますが、何と言ってもやっぱり一番は、地域の方々によく理解していただいて、地域の方々から私たちすごい資産の上に住んでいるのだということを感じてもらえるようなことが、大切なことなのではないだろうかというふうに考えております。そのために、やはりしっかりこの二つの遺産、そして、先ほど議員に言っていただきましたアドベンチャー・トラベル、これは私どもの町、本当に全てのものがあるような地域でございます。これを生かさない手はないだろうということを思っておりますので、北海道観光振興機構あるいは北海道とも連携をしながら、さらにこちらのほうをPRしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） 今、私が走りがちで質問して、そして町長も答弁されたようなことを、今、北海道地域活性化委員会というのがあります。これあるのをご存じですか。この中で、当然地域の特色を生かすと、町長もアドベンチャーのことも言いましたが、そういういろいろな洞爺湖町ではよそに負けない資源があるわけですから、その資源を活用してやっぱり先手先手で後追いじゃんけんではなくて、先を見込んだ、それこそ対策を講じていくべきだなと思っております。こういうことで、北海道の地域活性化委員会も当然のことに先ほ

どから申し上げているように、産業の創出であるとか、あるいは雇用の創出、多様な働き方、暮らし方、提言等をまとめて、北海道知事に答申をするということでもあります。

したがって、いろいろ新北海道スタイルであるとか、あるいはまた生活様式が変わる中で、本当に試行錯誤で、手探りで、まちづくりを進めて、住民の方々の生命と財産を守るという、そういうまちづくりをぜひ進めていただければなと思っております。

最後になりましたが、あと19分です。

今洞爺湖温泉に行くと、洞爺湖温泉大通り線を車で走ってみると、非常に整備がされて温泉らしい温泉になったなと思って、感心をしているところではありますが、今までの大通り線で総経費といいますか、財源の総額は幾らであったのだろうか、それから、どの起債を使って一般財源の持ち出しは幾らであったのか、それをぜひお聞かせ願えればと思います。

○議長（大西 智君） 若木経済部長。

○経済部長（若木 渉君） ご質問ございました洞爺湖温泉大通り線の整備の財源でございます。令和2年度、3年度、2か年で整備させていただきまして、全体事業費といたしましては1億7,053万3,000円となっております。ちょっと今年度分の工事が継続中の事業もございますので、まだちょっと変更の予定はございますけれども、いま現在の段階としては1億7,053万3,000円、内訳として合併特例債1億6,170万円、一般財源として883万3,000円となっております。

以上でございます。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） それで、洞爺湖温泉街というのはどこからどこまでなのでしょう。

○議長（大西 智君） 若木経済部長。

○経済部長（若木 渉君） 洞爺湖温泉街とはどこからどこまでかということですが、一般的には温泉に付随して温浴施設や宿泊施設、飲食店、土産店、遊戯店などが立ち並ぶ町並みと認識してございまして、当町の温泉街といたしましては、北海ホテルの付近からホテル華美付近までの区間の町並み一帯を温泉街として認識しているところでございます。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） ありがとうございます。

今、洞爺湖温泉街というのは、北海ホテルから華美のところまでだと。今、工事終了したのはビジターセンター下がってきたところまでです、今整備されているのは。やはり、温泉通り線ということで温泉街という位置づけの中で、ぜひ残っているところも整備する必要があるだろうと、公平平等の原則で。特にビジターセンターの下のほうの交差点、あそこにも大きな企業が張り付いているわけでありまして、あるいは上のほうにもお店屋さんもある。あるいはまた北海ホテル寄りになると、まだまだ小売店で一生懸命努力されている方々もいると、あるいはまた移住対策の一環として店舗を構えている人たちもいると。

したがって、できることならば私は北海ホテルのまだ月浦寄りのほうにライオンの彫刻があるかと思うのですが、あそこまでぜひ整備をする必要があるのではないのかなと、それ

が公平平等の原則でないのかなと思っっているわけではありますが、ただ、財源の状況から見て、どういう整備計画を考えているのかなと、あるいはまたどのところまで現時点で整備計画というものがあるのかどうなのか、その辺をぜひ聞かせてください。答弁お願いいたします。

○議長（大西 智君） 若木経済部長。

○経済部長（若木 渉君） 今回の道路整備の関係でございます。

コロナ禍前の道路整備の要望がございました当時は、インバウンドのお客様に多く訪れていただいております、旅行バックを引く際に、歩道のインターロッキングの段差によって、バックのキャスター部分ががたついて歩く外国の方々が多く見受けられましたことから、旅行者の安全確保やおもてなしの環境整備の観点からも、地域の方々から歩道のカラー舗装化ということの要望がございまして、これに応える形で整備してきたところでございます。

今年度の今後の整備についてでございますけれども、一応来年度につきましては、これまで2か年かけて整備した区間の照明灯のランプをLED化することを計画しているところでございます。また、これと併せまして、未整備区間の照明灯についても町並みの統一感をイメージした照明灯を整備することで計画しているところでございます。町といたしましても、将来的な町並み整備として統一感のある道路整備は必要であると認識していることから、今後につきましては、その貴重なご意見を参考にさせていただきます、今後の財源状況を勘案した中で、整備可能な時期を前向きに検討してまいりたいと考えているところでございます。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） 今、最後に経済部長は自分をなだめるような答弁してくれました。前向きに検討というのは、希望を持てるなど。ただ、行政の答弁として、検討しますといったらやらないという検討だなど一度はそういう受け止め方するのであって、前向きに検討ということになると、将来的にはやるのだろうなど。

そこで町長にも一言、決意の一端を聞かせてもらいたいものだけでも、やっぱり予算編成時期で先ほども申し上げたように、来年は町長選挙もあるということから概算予算となるだろうと思うのですが、この道路に対しての開発行為の一環として、調査費ぐらいは盛り込むことはできないのかなと、そういう期待をするわけでありましてけれども、その辺いかがでしょうか。

○議長（大西 智君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） ただいま経済部長が答弁したとおりの内容でございますが、ただ、来年度の予算については、経常経費のみの予算で当初スタートするというふうな考え方でおります。ですから、政策的なこと、あるいは大きな事業等々については、恐らく選挙が終わってからの予算措置になるかなというふうに思いますが、ただ、先ほど経済部長が答弁したとおり、前向きにそれは一つの路線としてやはり考えていかなければならないというふうに思っておりますので、町として、その考え方で進んでまいりたいなというふうに考えております。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） あとちょっと、それと同時に、ぜひやっぱり強化してもらいたいなということがあるのです。それはどういうことかという、花と緑のまちづくりということで、毎度運営事業を予算措置をしているところでありますけれども、遊歩道であるとかあるいはまた大通り線、花の咲いた頃のきれいなこと。これが洞爺湖温泉だなと思うような、魅力度を高める花壇、あの事業というのは、もっともっと前進をしていく必要性があるのではないかなという気がしてならないのです。

聞くとところによると去年あたりも、例えば、令和3年度も業務費ということで779万9,000円ということで、そのうちの消費税は70万9,000円ということで、約700万円ぐらいかけてすばらしい洞爺湖のコントラストを高める、そういう花壇というのはすばらしいと思うのです、自分は。だから、もっともっと花壇を増やすような、そういう策というものは講じられないのかなという期待をしているのです。何か住民の方々にも呼びかけると、いかほどかでもカンパしてもいいよという方も私は聞いています。あるいは大口も聞いています。だから、行政として、花と緑で観光客を迎える、疲弊している洞爺湖温泉にきれいな花で観光客を迎えるという、そういう精神が行政にも民にも必要ではないのかなという気がするのです。だから町長、ぜひこの花と緑、現在では大体700万円程度の予算措置、これを1,000万円にするとかという、そういう事業として前進させてもらいたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

町長をお願いします。

○議長（大西 智君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 洞爺湖温泉街だけに限らず、私どもの町は国道、あるいは道道、そして町道、これらについてもしっかりとこの地域を守っていこうということで、地域住民の皆様のご協力の下、今日まで来たかなというふうに思っております。

特に、温泉街の花いっぱい運動につきましては、公立の補助といいたいまいしょうか、これをうまく引用させていただいて、今日に来ております。規模の拡大も含めて、やはり観光地ですからその辺はしっかり対策を考えていかなければならないなというふうに思っております。ただ、今すぐ予算を増やせるかどうかというのは相手方もあることですから、いろいろな折衝をしながら、対策を講じていきたいと、いずれにしても悪い方向ではなくいい方向に検討してまいりたいなというふうに考えております。

○議長（大西 智君） 越前谷議員。

○1番（越前谷邦夫君） ちょっと走りがちでやってしまったから質問できることも質問できなかったこともありますけれども、6分間残して、これで一般質問を終わります。議事運営に協力させていただきます。終わります。

○議長（大西 智君） これで、1番、越前谷議員の質問を終わります。

一般質問はこれで終了いたします。

ここで休憩といたします。再開を11時35分といたします。

(午前 11 時 26 分)

○議長（大西 智君） それでは、再開をいたします。
引き続き、会議を会議を続けます。

(午前 11 時 35 分)

◎諮問第 1 号の上程、説明、質疑、採決

○議長（大西 智君） 日程第 3、諮問第 1 号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

諮問理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書 1 ページをお開き願います。

諮問が 4 件続きますが、人権擁護委員候補者の推薦についての案件でございます。

現在、人権擁護委員が 5 名いらっしゃいますが、このうち 4 名の方が令和 4 年 3 月 31 日で 3 年の任期が満了となります。このことから、人権擁護委員候補者として法務大臣に推薦するため、人権擁護委員法第 6 条第 3 項の規定に基づき、議会の意見を求めるものでございます。

それでは、議案書 1 ページ、諮問第 1 号人権擁護委員候補者の推薦についてでございます。

下記の者を人権擁護委員の候補者として推薦したいので、議会の意見を求める。

住所、虻田郡洞爺湖町高砂町 37 番地 27。

氏名、宮崎泰人氏でございます。

昭和 23 年 3 月 18 日生まれでございます。

経歴につきましては、議案説明資料で説明をさせていただきます。

議案説明資料の 1 ページをお開きください。

学歴でございます。昭和 47 年 3 月に専修大学法学部を卒業。

職歴として、昭和 53 年 2 月から司法書士を開業され現在に至っております。

公職歴として、平成 9 年 10 月から人権擁護委員として現在に至っております。平成 7 年 9 月から平成 21 年にかけて、合併を挟んで固定資産評価審査委員会の委員をされ、平成 21 年 5 月からは同委員会の委員長として現在に至っております。平成 22 年 9 月から洞爺湖町情報公開個人情報保護審査委員会委員として、また、平成 28 年 4 月から洞爺湖町行政不服審査会委員として現在に至っております。

団体歴等については、昭和 61 年 1 月洞爺青年会議所専務理事、昭和 62 年 1 月洞爺青年会議所副理事長を務められております。

再任ということでございますが、ご経験と知識を生かし、引き続き人権活動にご尽力をいただきたいことから、推薦するものでございます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） これから、確認程度の質疑を行います。

質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

ここでお諮りいたします。

本件は人事案件でありますので、討論を省略したいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、討論を省略することに決定いたしました。

これから、諮問第1号人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

この採決は、起立によって行います。

本件は、諮問のとおり答申することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（大西 智君） 起立全員であります。

したがって、諮問第1号人権擁護委員候補者の推薦については、諮問のとおり答申することに決定いたしました。

◎諮問第2号の上程、説明、質疑、採決

○議長（大西 智君） 日程第4、諮問第2号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

諮問理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書2ページをお開きいただきたいと思います。

諮問第2号人権擁護委員候補者の推薦についてでございます。

下記の者を人権擁護委員の候補者として推薦したいので、議会の意見を求める。

住所、虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉180番地10。

氏名、七戸朝子氏でございます。

昭和27年7月30日生まれでございます。

経歴については、議案説明資料でご説明をいたします。

説明資料の2ページ目を御覧いただきたいと思います。

学歴は昭和46年3月に北海道虻田商業高等学校を卒業。

職歴として、昭和46年4月洞爺温泉郵便局勤務、平成15年4月洞爺温泉郵便局長、平成20年6月洞爺温泉郵便局長として退職をされております。

公職歴として、平成22年1月から人権擁護委員として現在に至っております。

団体歴等については、昭和57年4月洞爺湖温泉8区自治会役員を務められております。

七戸氏も再任ということで、ご経験と知識を生かし、引き続き人権活動にご尽力をいた

きたいことから、推薦するものでございます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） これから、確認程度の質疑を行います。

質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

ここでお諮りいたします。

本件は、人事案件でありますので討論を省略したいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、討論を省略することに決定いたしました。

これから、諮問第2号人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

この採決は、起立によって行います。

本件は、諮問のとおり答申することに賛成の方はご起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（大西 智君） 起立全員であります。

したがって、諮問第2号人権擁護委員候補者の推薦については、諮問のとおり答申することに決定いたしました。

◎諮問第3号の上程、説明、質疑、採決

○議長（大西 智君） 日程第5、諮問第3号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

ここで、6番、五十嵐議員は、地方自治法第117条の規定により除席の対象となりますので、退場をお願いいたします。

〔五十嵐議員、除席〕

○議長（大西 智君） 諮問理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書3ページを御覧いただきたいと思います。

諮問第3号人権擁護委員候補者の推薦についてでございます。

下記の者を人権擁護委員の候補者として推薦したいので、議会の意見を求める。

住所、虻田郡洞爺湖町洞爺町123番地。

氏名、五十嵐優子氏でございます。

昭和28年3月29日生まれでございます。

経歴については、議案説明資料でご説明をいたします。

説明資料の3ページをお開きください。

学歴は昭和50年3月多摩川大学文学部を卒業。

職歴として、昭和 50 年 11 月から 54 年 6 月までソニー株式会社に勤務された後、昭和 59 年 7 月から商店従事で現在に至っております。

公職歴として、平成 19 年 4 月人権擁護委員、平成 24 年 4 月洞爺湖町社会教育委員として現在に至っております。

団体歴等については、昭和 62 年 5 月洞爺村商工会商工女性部副部長、平成 2 年 5 月洞爺村商工会商工女性部理事、平成 18 年 4 月洞爺湖町商工会商工女性部理事として現在に至っております。平成 9 年 5 月グレイセスとうや理事、平成 13 年 4 月洞爺国際交流協会会長、平成 23 年 4 月洞爺国際交流協会顧問として現在に至っております。

平成 24 年 4 月洞爺湖町社会教育委員として現在に至っております。また、平成 30 年 4 月成年後見業務支援員として現在に至っております。

五十嵐氏も再任ということで、ご経験と知識を生かし、引き続き人権活動にご尽力をいただきたいことから、推薦するものでございます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） これから、確認程度の質疑を行います。

質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

ここで、お諮りいたします。

本件は、人事案件でありますので討論を省略したいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、討論を省略することに決定いたしました。

これから、諮問第 3 号人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

この採決は、起立によって行います。

本件は、諮問のとおり答申することに賛成の方は、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（大西 智君） 起立全員であります。

したがって、諮問第 3 号人権擁護委員候補者の推薦については、諮問のとおり答申することに決定いたしました。

〔五十嵐議員、入席〕

◎諮問第 4 号の上程、説明、質疑、採決

○議長（大西 智君） 日程第 6、諮問第 4 号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

諮問理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書4ページをお開きいただきたいと思います。

諮問第4号人権擁護委員候補者の推薦についてでございます。

下記の者を人権擁護委員の候補者として推薦したいので、議会の意見を求める。

住所、虻田郡洞爺湖町栄町82番地1。

氏名、加賀谷真由美氏でございます。

昭和31年3月31日生まれでございます。

経歴については、議案説明資料でご説明をいたします。

議案説明資料の4ページをお開きください。

学歴は昭和53年3月岩手大学教育学部養護教育学科卒業。

職歴として、昭和53年4月から54年3月までNHKに勤務された後、昭和54年4月壮警町立壮警小学校教諭、昭和57年3月同小学校を退職。平成3年4月から伊達市立伊達中学校教諭、平成12年4月虻田町立洞爺湖温泉中学校教諭、平成15年4月から平成19年4月までは伊達市内の小中学校、それから壮警町の中学校の教頭をされております。平成20年4月壮警町立久保内中学校の校長、平成23年4月洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校校長、平成25年4月洞爺湖町立洞爺中学校校長、平成28年3月に同中学校で退職をされております。また、平成28年4月から洞爺湖町教育委員会教育指導専門員として現在に至っております。

公職歴として、平成31年4月人権擁護委員として現在に至っております。

加賀谷氏も再任ということで、ご経験と知識を生かし、引き続き人権活動にご尽力をいただきたいことから、推薦するものでございます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） これから、確認程度の質疑を行います。

質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

ここでお諮りいたします。

本件は、人事案件でありますので討論を省略したいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、討論を省略することに決定いたしました。

これから、諮問第4号人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

この採決は、起立によって行います。

本件は、諮問のとおり答申することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（大西 智君） 起立全員であります。

したがって、諮問第4号人権擁護委員候補者の推薦については、諮問のとおり答申するこ

とに決定いたしました。

ここで、休憩といたします。再開を午後1時といたします。

(午前 11時51分)

○議長（大西 智君） それでは、再開いたします。

午前に引き続き、会議を続けます。

(午後 1時00分)

◎町長の発言の訂正

○議長（大西 智君） 議案に入る前に、発言の訂正の報告をさせていただきます。

越前谷議員の一般質問の中で、真屋町長から昨日の板垣議員の一般質問の発言において、不適当な発言があったことにより、発言を訂正したいとの申出がありました。

後刻、記録を調査の上、処置することを報告いたします。

議案に入ります。

◎議案第29号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第7、議案第29号洞爺湖町北海道営土地改良事業分担金等徴収条例の制定についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書5ページをお開きいただきたいと思います。

議案第29号洞爺湖町北海道営土地改良事業分担金等徴収条例の制定について。

洞爺湖町北海道営土地改良事業分担金等徴収条例を次のように定めるものとございます。条例の趣旨でございます。

北海道営土地改良事業は、効率的かつ安定的な農業経営を確保するため、地域農業の展開方向及び生産基盤の状況を勘案し、必要な生産基盤及び営農環境の整備と経営体の育成支援を一体的に実施するため、北海道が事業主体となつて行うものですが、地元負担が発生いたします。このため、当該事業に係る分担金の徴収に関する基本的な事項を定める条例を制定するものとございます。

なお、受益者負担につきましては、北海道と市町村が連携して農家負担を軽減する第6期パワーアップ事業により、特別対策を実施することとしております。

条立ての順にご説明をいたします。

第1条、徴収の根拠でございます。

土地改良法に基づき、洞爺湖町において、北海道営土地改良事業分担金を徴収する場合及び特別徴収金を徴収することに関して必要な事項を定め、明記したものとございます。

第2条、分担金の額及び基準でございます。

毎年度、北海道知事が定めた額を超えない範囲内において町長が定めるものであり、第2項では、その基準は当該道営事業の実施する地域内にある土地を勘案し、町長が定めることとしてございます。

第3条、納税義務者でございます。

当該道営事業によって利益を受ける者で、その事業施行に係る地域内にある土地について、所有権及び利用権を有する者から徴収をすることとしてございます。

第4条、特別徴収金でございます。

北海道営土地改良事業分担金等徴収条例に基づき、対象となった者より徴収することを規定しております。具体的には、道営事業を実施した農家を事業完了8年以内に用途以外の用途に供するため、所有権を移転した場合や自ら目的外用途に供した場合にその者のより徴収することとしてございます。

ページをめくっていただきまして、6ページ。

第5条でございます。徴収方法及び時期でございます。

分担金及び特別徴収金の賦課及び徴収時期について、当該年度内とし、町長が発する納付通知書により納付しなければならないとしてございます。

第6条、納付日の変更及び減免等でございます。

天災等により、分担金の納付が困難と受益者について町長がやむを得ない事由があると認められたときに、その申出により納付日の変更、減額もしくは徴収を猶予することができるものとしてございます。

第7条、委任でございます。

この条例の施行に関して必要な事項は、町長が定めるとしてございます。

附則において、この条例は交付の日から施行することとしてございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第29号洞爺湖町北海道営土地改良事業分担金等徴収条例の制定についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 29 号洞爺湖町北海道営土地改良事業分担金等徴収条例の制定については、原案のとおり可決されました。

◎議案第 30 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第 8、議案第 30 号職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書 7 ページをお開きいただきたいと思います。

議案第 30 号職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部改正について。

職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

条例改正の趣旨でございます。

従前は心身の故障及び勤務成績がよくない場合に限って、分限処分ができる旨を条例で定めてございましたけれども、職員のコンプライアンス意識の向上と公務能率の維持向上並びに適正な公務運営の確保のため、地方公務員法に定める分限処分の事由の一つであります、職に必要な適格性を欠く場合に対応する公休、降任及び免職の手続に関し、所要の改正を行うものでございます。

改正の内容につきましては、新旧対照表によりご説明をさせていただきます。

議案説明資料 5 ページを御覧いただきたいと思います。

第 1 条の 2、公休の事由に職員がその職務の級に分類されている職務を遂行することについての適格性を欠くと認められる場合、公休できることを加える内容でございます。

第 2 条、降任、免職、休職及び公休の手続でございますが、第 4 項を第 5 項とし、新たに第 3 項として、職に必要な適格性を欠く場合に対応する降任及び免職の手続として、配置転換など他の職に転任できない場合に限ることを加える内容でございます。

なお、職に関する適格性を欠く判断基準等については、条例施行規則並びに分限処分に関する指針において、統一的に運用を図る仕組みを構築しているところでございます。

議案書に戻っていただきまして、附則を御覧いただきたいと思います。

この条例は、交付の日から施行することとさせていただきます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

5 番、立野議員。

○5 番（立野広志君） 今回の職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部改正ということで、条例改正が出てきたわけでありますが、この中で今、説明いただきましたけれども、その目的は職員の非行為が疑われる場合の分限処分を定めるということで、これ自体は

職員の非行為を事前に防止する施策ではないのではないかと。どちらかという、こういうことをやるとあなたは罰せられますよと、分限処分をしますよというふうにして、職員に対して、それこそチェックシートだって、誰がどういう基準でここに書いてある評価の文書も、人によって解釈は変わってくると思うのですけれども、そのチェックシートに基づいて、あなたは日々こういうことだからこういう処分をしますよと、こういうふうになるのかなと思うので、これまでもいろいろ問題提起されてきましたけれども、そういう職員の非行為を未然に防ぐための対策として、例えば研修や教育とか、そういったことを繰り返すというのなら分かるけれども、もうやればこれですよと、何か常にそれを意識して、萎縮した形で職員が仕事に業務するというふうになるのではないかと。

それから、これは事前の説明では、洞爺湖職員の分限処分に関する指針という中でもチェックシートのことが書かれてありますが、結局これチェックシートは上司なりその職員を指導する側の人間の、要は価値観によって、あるいは見方によって変わってくる内容でもあるなという気がするのです。その点をどう公正にしていくのかというあたりが、何かちょっとよくこの条例の中だけ見ると分からない部分があります。

その点でどんなふうにこれが運用されていくのか。そして、最後に当然分限処分を受ける、あるいはそういうふうに指導がされた職員が、ではどこで救済されるのか、救済のそうした手立てというのは、あくまでもこれまでであるような救済措置を申請すること以外にないのかどうか。この条例の中には救済のための規定というのが含まれているのかどうか、これもちょっと説明いただきたいと思います。

○議長（大西 智君） 高橋総務課長。

○総務課長（高橋謙介君） 今回のこの分限処分に関する条例が、未然に防ぐための措置ではないのではないかとというような、職員が萎縮するというようなことにつながるのではないかとということでございますけれども、まず、当然未然に防ぐためには、先ほど来前回から説明してございます、職員のコンプライアンス行動指針というものに基づいて、職員に事前にこういうような職務の適正な運営の確保のために、日頃小さなところから気づいて体制をしていくという改善を続けていくというようなことは、実際やっていくこととしております。

それでも長期間、ここでは6か月以上というふうには書いてあるのですけれども、そういう長期化にわたっても指導改善を受けても改善されない、そういうような事象があったら、そのまま放っておくとやはり大きな事故につながってくるということもございますので、そこでこの検討の土台に上げて、どういったような処分ができるかというような形に持っていくというような形で、考えております。未然に防ぐ防止は、これ以外のところで考えているということでございます。

あと、チェックシートは誰がつけるのかということでございますけれども、価値観が変わるという部分でございますけれども、チェックシートは課長がつけることとなっております。当然、課の、人の見方によっては、全く100%同じになるということはないとは、そういうことはあるとは思いますが、ただ、チェックシートをつけても、必ずこういうような

事象があって、こういうような対処をしましたということを上司に報告するというものとしております。そういったことで、その上司というのは部長になると思うのですが、部長のほうで調整というか、ある程度というようなこともできるし、公平に対応できる部分は担保されているかなというふうには思っております。

あとは分限処分、最終的に決まった後の救済措置というようなことではございますけれども、当然分限処分を決めるには、任命権者一人で決めるわけではございません。分限の審査委員会という形で専門家の意見も聞きながら、最終的な処分量定を決める形になると思います。その中で、一定の処分案が出た段階で、これは規則のほうで記載してございますけれども、当然弁明の機会を与えるということは考えてございます。こういう理由で処分になるけれども、弁解する余地はあるかというようなことを聞いた上で、最終的な処分になっていくというような形で、対応をしていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（大西 智君） 5番、立野議員。

○5番（立野広志君） 先ほどちょっと二つの点について、日々これがどういうふうに使われるかという点を聞きました。

今、課長がお答えになったように、日々のチェックシートに基づいて、チェックするのは直属の上司、課長がチェックをするということですが、そのチェックしている内容については上まで報告が上がるのだと、こういう話なのですが、私、これ職員にとっても大変萎縮するし、ちょっと心配なことは何かといいますと、こういう職員評価制度というのは行政職員だけではなくて、学校なんかでももう既に始まっています。

ですから、例えば学校でいけば、校長がその学校の教員の評価を決めるのです。そのA、B、C、Dまでランクを決めて、大体Cが普通だというのですが、要はそれによって手当の金額が変わってくるのです、毎年。そういうようなことで、つまり学校は置いておいて、チェックする上司の顔をうかがって仕事をすれば、気に入られれば評価は良くなって、そうでなければ評価が下がる、あるいはチェックシートにチェックがつくというふうなことになる。まあ、業務そのものも誰のための仕事なのかと。町長は再三、公務員は町民全体の奉仕者なのだと言いながら、実は職員は上司の顔をうかがって仕事をすると、こういうふうになってしまう可能性もあるわけです。そこら辺をやっぴり公正に保っていくためにどうするのかと。日々のチェックの仕方もそうですけれども、ここにチェックしたことすら実は本人には十分知らされないまま、後にそれが一年に1回なりまとめて評価として本人に知らせるなんていう場合もあるかもしれません。

いずれにしてもこの規則、条例ができて、分限に関する手続や効果というのが条例に盛り込まれることによって、結局、誰が見ても、あるいは実際に問題のある職員もいるかもしれませんが、そうでない職員も中にこういったものに該当してくる可能性も非常に危険性としてはあるよと。そして、また上司の言うことさえ聞いていればいい、そうなれば、対町民との間ではっきりいえば事務的なそういう対応しかできない、こんなことも起こりうる可能性が

あるので、この辺をどう日頃の運用の中で生かしていくのかということと、もう一つは、弁明の機会を与えていると言うのですけれども、これ弁明したとしても、例えば分限処分、あなたはもう分かりましたと、弁明を受けました。しかし処分は処分ですということになったときにそれを撤回する、それに対して異議を申し立てるための公平委員会とか、結局それは通常の手続を踏む以外に、この条例の中にそれを救済する、あるいはその救済を受けて再審査するとか、そういうような規定がなければ、これは一方的に何か職員を萎縮させるためだけのものになってしまうのではないかというふうな気がするのですが、どうでしょうか。

○議長（大西 智君） 高橋総務課長。

○総務課長（高橋謙介君） 日々の運用の中で、当然こういうようなところがチェックがついているんだよというようなことは当然その職員に対しても説明します。その上で、こういうような改善をなささいということは説明していきます。そういったものを積み重ねていくという形になりますので、全く知らないところでということにはならないかと思えます。

あと、それが人事評価のほうに反映するというようなことをございますけれども、人事評価についても基本的に評価基準をあらかじめ開示していること、あと自己評価という形で、自分の評価を出してもらおうと、それに対して上司がどういう考え方を持っているかという形でまずやることにしています。当然面談も何回もした上でやっていくと。

評価結果についても、全て開示するというような形をとってございます。それに納得がいかない場合には、苦情への対応というようなルールも設けてございます。そういった意味で、日頃の運用としては公平な部分というのが担保されているかなという形では考えているところでございます。

あと弁明の機会については、弁明を聞いた後、処分が決まった後にこの条例においては救済措置ということは設けてございません。それについては、やはり法律に基づきました公平委員会というのがその役割を担うと思っておりますので、特段条例には設けていません。

以上です。

○議長（大西 智君） 武川副町長。

○副町長（武川正人君） 今回の分限に関する手続、これは懲戒処分と分限は議員もご承知のとおり違います。今回のその職員の不祥事の関係で、やはりうちの条例の中で適正な公務運営に当たって、職に必要な適格性を欠く、こういう部分の規定が条例の中できちっとあられていない。当然、分限処分は懲戒処分と違いまして、退職に当たっても懲戒処分の場合は退職金が出ない、ただ、分限退職の場合は退職金が出るというように、基本的には公務員として勤めることは無理じゃないですかと、最終的に柔らかく言うとそういうような、決して罰則を、職員を締めつけるとかそういうことではなしに、今回の発生したこともそうすけれども、その一方では、非常に身内をかばうような処分で甘いのではないかというような、町民の皆さんの声もお聞きします。ですけれども、手続的に条例の中できちっと整備する、それからそういう不適格、いくら指導を含めて行ったとしても、公務員としての資質に欠ける、そういう職員をどうするかという部分では、最終的にはこの分限という形で促すという

手続的なものを定めるものでございます。

当然今回の一連の制度等につきましても、職員の研修会あるいは場合によっては外部からの講師も呼んで、それぞれの職階に応じて行うこととしてございます。そういう意味で、決して職員を萎縮させる、縛るための今回の改正ではないということをご理解いただきたいと思っております。

○議長（大西 智君） 5番、立野議員。

○5番（立野広志君） 今回は提案されていないことではあるけれども、上司が部下に対してコンプライアンスチェックシートを用いてチェックをすると、こういうことだけでなく、私は部下が上司をチェックすると、こういうこともしていかなければいけないと思うのです。時には部下よりも上司のほうがいろいろ問題が起こる場合もあるわけで、その上司の好みによってチェックがついたりつかなかったり、あるいは職員の間で差別が起こったりすることもあるわけで、だからお互いにこういう、それこそ切磋琢磨といいますか、職員は上司を、上司は部下を、お互いに問題点、課題があればそれを出し合って改善できる、そういう職場の風紀、環境をつくるのが大事だと思うのです。何か上から職員をただ指導したり、あるいはチェックをして改善を求めるというだけではなくて、その中身が正しいのかどうか、それが今の現状に即しているのかどうか、本人合っているのかどうか含めて、逆にやっぱり部下が上司をチェックする、こういったことも併せて私は行政として考えていくべきことがあるのではないかと思いますので、今回出されている条例とは直接この点については触れていないのですが、町長はどのようにお考えですか。

○議長（大西 智君） 武川副町長。

○副町長（武川正人君） 前回の全員協議会含めて、職員とのコミュニケーション、二十何人退職をしてしまって、年齢の段差も開いてございます。非常にコミュニケーションを取るのが難しい状況になっているのも事実かと思います。年齢幅が開いているということもあって。そういうことから、今後については若い職員含めて、本当に相談しやすいしゃべりやすい、あるいは今お話されたように、上司からいろいろと行き過ぎた指導といいますか、そういうような場合も、ほかの上司に相談できるような風通しのいい職場をつくっていくことが必要だろうというふうに思いますし、私のところには職を限らず誰でも相談に来れるような、今たくさんの職員がいろいろと小さいことでも相談に来ます。そういう環境をさらに部長のところにも行きやすい、それから自分のところの所管の課長だけではなくて、相談できる、そういうコミュニケーション、本当にパソコンだけに向かって、朝から晩までにらめっこするというだけではなくて、そういうような職場環境をつくっていきたい。その中で、律すべきことは律する、分限であったり懲戒であったり、そういうものについては、町民の皆さんにやっぱり不審を抱かれないような形で組織をまとめていきたいというふうに考えてございます。

○議長（大西 智君） ほかに質疑はございますか。

7番、千葉議員。

○7番（千葉 薫君） 1回だけ。

この分限の条例、これに対して別に反対するものではありません。

職員の方々がこれを見て、やはり当たり前のことなのでしょうけれども、法を犯すようなことはしないよと、というような枠にはめるような格好でいいと思います。今までなかったのがおかしいかなと思うぐらいです。

ただ、今、副町言われたように、風通しの良いという話が本当にそれは実現できるのかどうなのか。そういった話で終わるのであれば、見えない、私のところに来れば相談に乗る、その部長とか上司に相談に行けば相談に乗ると言われましても、それで止まればまたその方々がどうなるのか。やっぱりそういったところはきちんと整理しないと、私、駄目だと思います。私たちの目にも見えるように、ガラス張りで行っているなど見えるように。

町長が前回の一般質問で言ってくれましたけれども、ピラミッド型なのですから、やはりトップのほうに行かないとトップは判断できないのではないですか。やはりそういったところをきちんとつくってもらい、それがコンプライアンス、この中にも入れ込んで、きちんと整理していただきたいと、要望も含めてですけれども、この条例に当たっての要望としたいと思いますが、答弁いただけますか。

○議長（大西 智君） 武川副町長。

○副町長（武川正人君） 本当に行政の中では、何か職員からパワハラを受けている、そういう部分については総務課長も話しましたように、通報制度というのがございますけれども、実際に通報して、私は自分の上司にというのはなかなか言いづらいところもございます。私、今こういうふうにしたいというお話しましたがけれども、やはり最終的にはトップのほうにまで上がっていくというような仕組みを目に見える形で、こういう分限を含めた制度をきちっとすると同時に、今進めているコンプライアンスを含めた一連の中で、可視化できるような形で仕組みとしてきちっとつくりたいというふうに思います。

○議長（大西 智君） ほかに質疑はございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） なければ、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第30号職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部改正についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第30号職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部改正につ

いては、原案のとおり可決されました。

◎議案第 31 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第 9、議案第 31 号洞爺湖町税条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） それでは、議案書 8 ページを御覧いただきたいと思います。

議案第 31 号洞爺湖町税条例の一部改正について。

洞爺湖町税条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。

条例改正の趣旨でございます。

過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法が令和 3 年 4 月 1 日に交付されたことに伴いまして、関連規定を整備するため、洞爺湖町税条例の一部を改正するものでございます。

主な内容としましては、旧法であります過疎地域自立促進特別措置法の適用期限が令和 3 年 3 月 31 日で失効したことに伴いまして、新法であります過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に法令の名称を変更する、また、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の第 8 条第 1 項に規定されている計画である洞爺湖町過疎地域持続的発展市町村計画の記載内容に併せ、振興すべき業種として定められている業種の拡大を図るものでございます。

改正内容につきましては、新旧対照表によりご説明をさせていただきたいと思いますので、議案説明資料の 6 ページを御覧いただきたいと思います。

第 62 条、固定資産税の税率については、第 3 項中において、旧法である「過疎地域自立促進特別措置法」とあるのを新法である「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」に改め、また、改正前においては不均一課税の対象としていた業種を「旅館業」のみとしておりましたが、新法の施行及び洞爺湖町過疎地域持続的発展市町村計画の策定に伴いまして、不均一課税の対象業種を「製造業、情報サービス業等、農林水産物等販売業、旅館業」に拡大するものでございます。

議案書 8 ページに戻っていただきまして、附則を御覧いただきたいと思います。

第 1 条において、施行期日は交付の日からとしてございます。

第 2 条においては、経過措置として改正後の規定は令和 4 年度以後の年度分の固定資産税について適用し、令和 3 年度分までの固定資産税については、なお従前の例によるとしてございます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第 31 号洞爺湖町税条例の一部改正についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 31 号洞爺湖町税条例の一部改正については、原案のとおり可決されました。

◎議案第 32 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第 10、議案第 32 号洞爺湖町国民健康保険税条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書 9 ページを御覧いただきたいと思います。

議案第 32 号洞爺湖町国民健康保険税条例の一部改正について。

洞爺湖町国民健康保険税条例の一部を改正する条例を次のように定めるものでございます。条例改正の趣旨でございます。

全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律が令和 3 年 6 月 11 日に公布されたことに伴いまして、関連規定を整備するため、洞爺湖町国民健康保険税条例の一部を改正するものでございます。

主な内容としましては、子ども・子育て支援を拡充する観点から、子供、これは未就学児でございますけれども、に係る国民健康保険税の均等割額を減額し、負担の軽減を図ることとするものでございます。

改正内容につきましては、新旧対照表によりご説明をさせていただきたいと思いますので、議案説明資料の 7 ページを御覧いただきたいと思います。

第 3 条、国民健康保険の被保険者に係る所得割について並びに第 4 条、国民健康保険の被保険者に係る資産税割について並びに第 5 条、国民健康保険の被保険者に係る被保険者均等割額について、それぞれ規定の明確化に伴う見出し中の字句の整理を行うものでございます。

第 5 条の 2、国民健康保険の被保険者に係る世帯別平等割額について、こちらも規定の明確化に伴う見出し中の字句の整理及び引用する条文の変更に伴い、規定を整備するものでございます。

続きまして 8 ページ目をお開きください。

第 6 条、国民健康保険の被保険者に係る後期高齢者支援金等課税の所得割額については、不要な規定の削除に伴う字句の整理でございます。

続きまして、第 13 条、納税義務の発生、消滅等に伴う賦課については、所要の規定の整備に伴う字句の整理でございます。

続きまして 8 ページから 12 ページ、上段に記載の第 23 条、国民健康保険税の減額については、引用する法律の条文の変更に伴う規定の整備、規定の明確化に伴う字句の整理及び第 2 項に加え、均等割保険税額について、子育て世帯の経営的負担軽減の観点から、その 5 割を軽減するとしてございます。

ただし、低所得世帯に対して、応益保険税の軽減 7 割、5 割、2 割と受けている世帯につきましては、軽減後の均等割保険税より 5 割軽減するものがございます

第 23 条の 2、特例対象被保険者等に係る国民健康保険税の賦課の特例については、所要の規定の整備に伴う字句の整理でございます。

次に、12 ページ下段からの附則でございます。

附則第 10 項、公的年金等に係る所得に係る国民健康保険税の課税の特例について並びに第 11 項、上場株式等に係る配当所得等に係る国民健康保険税の賦課の特例について並びに第 12 項、長期譲渡所得に係る国民健康保険税の課税の特例については、それぞれ引用する条文の変更に伴う規定の整備でございます。

14 ページ、15 ページをお開きください。

第 14 項、一般株式等に係る譲渡所得等に係る国民健康保険税の課税の特例について並びに第 15 項、上場株式等に係る譲渡所得等に係る国民健康保険税の課税の特例について並びに第 16 項、先物取引に係る雑所得等に係る国民健康保険税の賦課のところにつきましても、引用する条文の変更に伴う規定の整備でございます。

続きまして、16 ページ、17 ページを御覧ください。

第 17 項、土地の譲渡等に係る事業所等に係る国民健康保険税の課税の特例について並びに第 18 項、特例適用利子等に係る国民健康保険税の課税の特例について並びに第 19 項、特例適用配当等に係る国民健康保険税の課税の特例についても、引用する条文の変更に伴う規定の整備でございます。

18 ページ、19 ページを御覧いただきたいと思えます。

第 20 項、条約適用利子等に係る国民健康保険税の課税の特例について並びに第 21 項、条約適用配当等に係る国民健康保険税の課税の特例につきましても、引用する条文の変更に伴う規定の整備でございます。

戻っていただきまして、議案書 10 ページを御覧ください。

附則を御覧いただきたいと思えます。

附則における第 1 項の施行期日については、交付の日から施行するとしてございます。

ただし書きとして、第 5 条の第 1 号、第 13 条第 1 項、第 23 条及び第 23 条の 2 の改正規定並びに附則第 10 項から第 12 項まで及び第 14 項から第 21 項までの改正規定は、令和 4 年

4月1日からとしてございます。

第2項の適用区分では、改正後の洞爺湖町国民健康保険税条例の規定は、令和4年度以降の年度分の国民健康保険税について適用し、令和元年度分までの国民健康保険税については、なお従前の例によるものとしてございます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

○議長（大西 智君） 5番、立野議員。

○5番（立野広志君） 3点について伺います。

一つは、今回全世帯対象型の社会保障制度を構築するということですが、対象としているものは未就学児までと、こういうことになっております。実際に国民健康保険の均等割については以前から指摘しておりますように、所得云々に関わらず、世帯の人員に対して課税されるということですから、大変家族の多いところは負担も大きいということなのですが、これが未就学児まで限定という形で、それも全額ではなくて半額だということなのですが、この辺についてちょっと町長、どんなふうにもまず受け止めているのかひとつ伺いたいのと、二つ目は、7割、5割、2割と軽減措置が行われるわけですが、例えば、7割軽減対象の未就学児の場合は、残りの3割の半分が減額されると、こういう内容になります。ですから、全体としては7割軽減が8.5割軽減になるという計算のようなのですが、実際に当町において、この7割、5割、2割の軽減対象となる世帯や人数がどのぐらいいるのか、この点についても分かれば示していただきたいなど。

もう一つは、半分を減額するといいいながら、その減額される50%のうちの半分は国が負担をして、残りの半分の半分、4分の1は北海道が負担する。また、残り4分の1は町が負担するところというふうになっているのです。そうすると、町の負担分の4分の1という財源は、これは特別交付税措置とかあるいは何かそういった別な形で措置されるものなのか、それともこれは一般財源から出さなければならないものなのか、そしてその金額というのはいくらかのぐらいなのか、ちょっとその辺伺いたいと思います。

○議長（大西 智君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 今回の国民健康保険税の一部改正について、これは国のほうも子育て対策、こういうもので打ち出してきた制度というふうに認識しておりますが、今、議員おっしゃいましたように、負担の関係でいきますと国が2分の1、そして都道府県が4分の1、市町村が4分の1という状況になっております。今までもそうでございますが、私ども町村としては、あるいはのほうもそうだと思いますけれども、毎年のように国のほうに対して国の負担割合を、負担率をもう少し上げてほしいということを要望しておりますが、いまだかつてそれが通っていないというのが現状でございます。

ただ、細部については担当のほうから説明を申し上げさせていただきます。

○議長（大西 智君） 藤岡税務財政課長。

○税務財政課長（藤岡孝弘君） 2点目、3点目の質問でございますけれども、7割、5割、2割の世帯数、人数ですけれども、今回の改正の該当します未就学児につきましては、38世帯の57人が直近の数字でございます。それから、このうち7割、5割、2割に未就学児がどれぐらいいるのかということですが、これはちょっとシステムの都合上、対象を割り出すのが困難ですので、そこは現在承知のほうはしておりません。

それから、財源に関して未就学児の半額を今回減額するわけですが、国が2分の1、道が4分の1、地方が4分の1ということで、財源のほうですけれども市町村の保険料の軽減を基礎として政令で定めるところによりまして、まずは一般会計からこの軽減額を国民健康保険の特別会計に繰り入れることとされております。繰り入れた額、一般会計から負担した額につきましては、保険基盤の安定制度で国民健康保険のほうで財源が措置されるような仕組みになっております。

○議長（大西 智君） ほかに質疑はございますか。

5番、立野議員。

○5番（立野広志君） 1番目の最初に聞いた未就学児までということについて、町長どうお考えなのかということについては、国のほうにはもう少し負担を増やしてほしいというようなことを言ってきたという程度ですけれども、子育て世代の経済的負担軽減ということであると、これはもう以前からお話していますように、18歳まで均等割りを全額、これは均等割りという形で子供の分は負担をすべきではないと、これは全国の知事会もそうですし、それから市町村の段階でも国に再三要求してきたことでもあります。そして、国民的な運動も上ってきたことによって、ある面ではここまで手を尽くしたのかなということぐらいなのですが、まだまだそういった点では制度上、矛盾が多くて、町長はもう少し増やしてほしいという思いのようですが、それこそはっきり言えば中途半端な対策だと言わざるを得ない。その辺の認識を私はちょっと伺いたかったなと思いました。

それから、7割、5割、2割の対象世帯、人数などについては、今は分からないと言うので、システム上分からないというのであれば、この後出してくださいと言っても無理なのかな。ちょっとその辺、出せないのがちょっとよく分からないのですが、そういうシステム、要は既定のものしか集計上できないというようなシステムなのだろうと思うので、その辺は38世帯57人と言いましたから、その辺はぜひ手作業でも大変かもしれませんが、できるのであれば出していただきたい。

それから、3番目は一般会計から特別会計に繰り入れて、保険の基盤安定のほうに、基金のほうに繰り入れるという話ですが、それ金額については今のところほどのぐらいになるのか、一般会計の負担としてどのぐらいを見込んでいるのかということは、ちょっともう一度お答えいただきたいと思います。

○議長（大西 智君） 藤岡税務財政課長。

○税務財政課長（藤岡孝弘君） 7割、5割、2割のうちの未就学児の数について、先ほどシステム上ちょっと今出すことができないというお話させてもらったのですが、ちょっと

と時間いただければ今年度の状況を精査して、後ほど資料のほうでできればお渡ししたいというふうに思います。

それから、費用負担の半額の繰入れの関係でございますけれども、この額についてですけれども、先ほど7割、5割、2割、対象児童数を絞り切れていない関係で試算のほうをするのはできないのですけれども、これが今申しました38世帯の57人が、例えば軽減世帯に該当しない場合で試算しましたところ、軽減額につきましてはマックス57万円ということでございます。このうち7割、5割、2割の対象者おりますので、この57万円の範囲内で収まる金額の繰入れになるかというふうに思います。

○議長（大西 智君） 5番、立野議員。

○5番（立野広志君） 今聞いて驚きました。4分の1で計算すれば大体57万円なのです、そうすると。ですから、総額でどのぐらいかというとその4倍、均等割りの国の負担分も入れてということになります。金額的には本当にわずかです。わずかなこの軽減をやるのに、随分大それた宣伝しています。子育て世帯の経済的負担軽減の観点からとって、これ7割、5割、2割だけではなくて、それに該当しない世帯も含めて、ちょっとどのぐらいかもしかするともっと金額が上なのかもしれませんけれども、これを最後に聞きます。軽減対象以外の世帯も含めてどのぐらいになりますか、人数、世帯。

○議長（大西 智君） 藤岡税務財政課長。

○税務財政課長（藤岡孝弘君） 今申しました57万円というのは、軽減世帯を抜いて軽減されないとした場合の軽減額が57万円でございますので、最大でみて57万円が軽減額の上限でございますので、7割、5割、2割を含めるとさらに下の金額、57万円以下の金額、軽減額になるというふうに考えております。

すいません。子供のいる世帯が38世帯の57人です。なので、このうち7割、5割、2割、それから軽減されない世帯もこの中には含んでおります。

○議長（大西 智君） ほかに質疑はございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） なければ、これで質疑を終わります

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第32号洞爺湖町国民健康保険税条例の一部改正についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第32号洞爺湖町国民健康保険税条例の一部改正については、原案のと

おり可決されました。

ここで、休憩といたします。再開を2時5分といたします。

(午後 1時53分)

○議長（大西 智君） それでは、再開をいたします。

休憩前に引き続き、議案を続けます。

(午後 2時05分)

◎議案第33号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第11、議案第33号財産の取得についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書11ページを御覧いただきたいと思います。

議案第33号財産の取得について。

次のとおり財産を取得するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

取得する財産は、避難所用のパーテーションでございます。

数量は400張り。

契約の方法は、指名競争入札。

取得価格は1,113万2,000円でございます。

取得先は、虻田郡洞爺湖町本町157番地。福島文具店、福島良一となっております。

議案説明資料は最後のページ、20ページを御覧ください。

取得する財産の概要でございます。

本件は災害時に避難所で使用するパーテーションを購入するもので、当該パーテーションは、ワンタッチ式で部品の組み立て不要な自立式のスチールベルト一体4面構造となっております。

納入完了期日は、令和4年2月28日となっております。

財源措置につきましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で、全額が交付対象となっております。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はございませんか。

5番、立野議員。

○5番（立野広志君） 今回購入予定のパーテーションですが、今、避難所で400張り、購入予定は。ほかにもパーテーション確保していると思うのですが、そういったいろいろな種類のパーテーションが避難所で混在するようなことにならないのか、それともこれはどこか特

定の避難所に固めてこれだけを設置するののかということ。それから、サイズなのですから、今避難所といえば大体寝るのに床ではなくて段ボールベッドとか、そういったものを置くような方向になってきています。これを見ると2.1掛ける2.1という基準だと、ほぼほぼベッドを置いて、あともう余り日用品を置くスペースがなくなってしまうのではないかと思います。その辺も含めて、実際にこういった避難生活をするときの模擬的にテントを立てて、そしてそこに例えばベットを入れて多少の日用品をそこに置いたときに、これだけのスペースで間に合うのかどうか、この辺の検証なんかもしながら、この品物を決定したのかどうかということ、それから、これは購入して一、二年ならまだいいのですけれども、材質がナイロンで特殊コーティングされているというのですけれども、これ経年劣化の心配もあります。よくナイロン製やゴム製などのものは、大体四、五年すると表面がざらざらになったり、あるいは弾力性がなくなって破けてしまうというようなことも起こるわけですが、このパーテーションは大体どのくらいの耐用年数といいますか、期間を想定しているのでしょうか。それについても伺います。

○議長（大西 智君） 仙波危機管理室長。

○危機管理室長（仙波貴樹君） ただいまの質問でございます。

昨年パーテーションとして、段ボール製のものを購入しているところでございます。昨年購入した台数が540台というところで、今年度に入りましてこのパーテーションを購入するといったところでございます。

同じ避難所に多数のものが混在して混乱しないかというご質問ですが、段ボール製のパーテーションにつきましては、ひとり世帯ですとかそういうのを想定してございまして、このパーテーションにつきましては家族用として購入してございまして、サイズについても事前に仕様を選定する中で実際のものを見て、町長初め、副町長、両部長などにもご確認いただいて、この仕様を決定したところでございます。

また、地べたに寝ることがないというお話ですが、これについても昨年整備した段ボールベッドですとか、今後も少しずつではありますが段ボールベットや普通のキャンプ用に使えるベットの購入なんかは今後考えてございますので、地べたに寝ずにこのパーテーションを使用しながら、中で一定程度の避難生活を送っていただくというところでございます。

また、日用品を置けるかどうかというお話ですが、今、整備しています段ボールベッドにつきましては、段ボールの中に物を入れたりすることができるような構造になってございまして、ある程度の日用品、洋服ですとかそういったものの収納はできるものというふうに考えております。

また、10月15日に防災訓練を実施したときにも、実際に段ボールベッドとパーテーションの組み立てを訓練していただいて、町民の皆さんにもこういうものを町で整備しているというところを知っていただいたところでございます。

また、経年劣化のご質問ですが、これの耐用年数というのはちょっとすいません、承知していませんでしたが、議員おっしゃるような劣化というのは、キャンプに使うテントや何か

は防水機能を持たせたものがあるのですが、それに表面から水が浸透しないようなコーティングをしている場合については、数年で経年劣化が見られる製品もありますが、これについては防水という面では防水機能を持たしたものではございませんので、表面にはそういった防水加工がされたものではないものですから、通常のキャンプで使用するテントよりかは劣化が少ないものというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大西 智君） ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第 33 号財産の取得についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 33 号財産の取得については、原案のとおり可決されました。

◎議案第 34 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第 12、議案第 34 号工事委託協定の変更についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） それでは、議案書 12 ページを御覧いただきたいと思います。

議案第 34 号工事委託協定の変更について。

工事委託協定を次のように変更する。

この案件につきましては、令和 2 年 6 月 17 日に議決されました議案第 7 号洞爺湖町公共下水道根幹的施設の建設工事、虻田下水終末処理場、洞爺クリーンナップセンター改築更新工事における委託の協定中、協定金額を 4 億 7,000 万円から 4 億 1,871 万円に改めるものでございます。

この工事協定の変更につきましては、虻田下水終末処理場、洞爺クリーンナップセンターの改築更新工事として、日本下水道事業団と委託協定を締結しておりますが、協定金額について、当初予定していた監視制御設備更新に伴う仮設盤設置の施工段取りを調整することにより不要とした変更による見直しをしたほか、虻田下水終末処理場汚泥脱水機の機器積算額の見直し及び洞爺クリーンナップセンターの汚泥脱水機更新に伴う仮設脱水機の設置を不要

として、虻田下水終末処理場に汚泥運搬することにより、仮設費等の見直しを行ったことによりまして、5,129万円が減額となったものでございます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第34号工事委託協定の変更についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第34号工事委託協定の変更については、原案のとおり可決されました。

◎議案第35号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第13、議案第35号令和3年度虻田郡洞爺湖町一般会計補正予算についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書13ページを御覧いただきたいと思います。

議案第35号令和3年度虻田郡洞爺湖町一般会計補正予算（第6号）でございます。

令和3年度虻田郡洞爺湖町一般会計補正予算（第6号）は、次に定めるところによる。

第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ9,134万4,000円を追加し、歳入歳出の総額を歳入歳出それぞれ76億6,578万9,000円とするものでございます。

第2条の地方債の補正につきましては、事項別明細の中で説明をいたします。

12月会議の補正予算の概要は、新型コロナウイルス感染症対策として、国が子ども・子育て支援の推進として行う子育て世帯への臨時特別給付金支給事業、3回目のワクチン接種体制の確保整備事業、町の指定管理者に対する経営継続支援事業等を計上してございます。

また、原油価格高騰に伴う学校等の公共施設における暖房費の増嵩、コロナウイルスの影響による各種事業の中止に伴う減額等を計上してございます。

以下、事項別明細によりご説明をさせていただきたいと思います。

事項別明細の4ページ、5ページ目をお開きください。

まず歳入でございます。

13 款 1 項 1 目農林水産業分担金。こちら北海道の補助金が採択されたことにより、道営土地改良事業に対する農業者の負担分を 353 万 8,000 円減額するものでございます。

15 款国庫支出金 1 項国庫負担金 1 目民生費国庫負担金。障害者自立支援給付扶助の増により 1,588 万 7,000 円の増額。子どものための教育・保育給付費負担金はどうやこ幼稚園新規入園者の増により 163 万 1,000 円の増額でございます。

2 目衛生費国庫負担金。医療従事者等のワクチン接種に対する新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金で 224 万円、10 分の 10 の増額でございます。

2 項国庫補助金 2 目民生費国庫補助金 2 節児童福祉費補助金。こちらは児童手当の改正等に伴うシステム改修費で、子ども・子育て支援交付金 19 万 3,000 円を増額するものでございます。3 節保育所費補助金、子育て支援センターの人件費の減に伴いまして、子ども・子育て支援交付金 78 万円を減額するものでございます。6 節子育て世帯への臨時特別給付金支給補助金、10 分の 10 でございますが、高校生までの子供がいる世帯に対して臨時特別給付金を支給するもので事務費 92 万 1,000 円、事業費 4,390 万円を増額するものです。

3 目衛生費国庫補助金。こちらは 3 回目のワクチン接種体制整備に係る経費として、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業補助金 824 万 5,000 円を増額するものでございます。

5 目土木費国庫補助金 2 節の建築指導費補助金で、対象事業費の増によりまして、民間大規模建築物耐震改修事業補助金 92 万 1,000 円を増額するものでございます。

6 ページ、7 ページ目をお開きください。

16 款道支出金 1 項道負担金 1 目民生費道負担金。障害者自立支援給付費の決算見込みによりまして、障害者自立支援給付費等負担金 794 万 3,000 円を増額するものです。子どものための教育・保育給付費負担金はどうやこ幼稚園の新規入園者の増によりまして 143 万 4,000 円を増額するものです。

2 項道補助金 1 目民生費道補助金 4 節の医療助成費補助金は、扶助費の増によりまして重度心身障害者医療費補助金 150 万円を増額するものです。6 節保育所費補助金は、子育て支援センターの人件費の減によりまして、子ども・子育て支援交付金 78 万円を減額するものです。

3 目農林水産業費道補助金。道営土地改良事業に対して、第 6 期パワーアップ事業が採択されたことによりまして、次期世代農業促進生産基盤整備特別対策事業補助金 120 万円、水利施設等保全高度化事業補助金 233 万 8,000 円を増額するものです。

4 目商工費道補助金。自然公園等整備事業補助金 402 万 6,000 円を減額するものです。こちらは財田自然公園観察道整備で実施予定でございました、財田トイレ解体工事を次年度に繰り延べしたことによる減でございます。2 節商工費補助金、あつもり商品券発行事業の事業確定によりまして、プレミアム商品券発行事業費補助金の 3 万 1,000 円を減額するものです。

17 款財産収入 2 項財産売払収入 1 目土地売払収入、町有地（原野）でございますけれど

も、土地売却で土地売却収入 44 万 1,000 円を増額するものです。

18 款 1 項 寄附金 1 目 一般寄付金。こちらはふるさと納税寄附金の決算見込みによりまして、4,737 万 1,000 円を増額するものでございます。

2 目 観光費寄附金。こちらは北海道トライアスロンの中止によりまして、寄附金の受付停止によって 500 万円を減額するものです。

8 ページ、9 ページ目をお開きください。

19 款 1 項 1 目 繰入金。観光開発基金繰入金は、洞爺駅構内エレベーター整備事業補助金の確定によりまして 10 万円の減額。それから公共施設等整備基金繰入金は、新あぶた保育所建設基本計画策定業務の確定による減が 290 万円、それから、虻田中学校の外壁改修工事の確定によります減が 60 万円、合せて 350 万円を減額するものでございます。それから、みんなの基金繰入金につきましては、芸術文化フェスティバル中止による 40 万円の減額、箱根町中学校親善訪問事業中止によります 110 万円の減額、三豊市との小学校の交流事業でありますフレンドリーツアー中止による減額 190 万円、合せて 340 万円を減額するものでございます。森林環境譲与税基金繰入金につきましては、森林クラウドシステム用備品購入で 39 万 1,000 円を増額するものです。

続きまして、21 款 諸収入 5 項 3 目 雑入でございます。社会教育事業等参加負担金は、新型コロナウイルスの影響によりまして事業中止となったフレンドリーツアーの参加費等 120 万円の減額でございます。ふるさと納税事務手数料は北海道トライアスロンの中止に伴い、観光費負担金の受付停止をしたことによる大会事務局からの事務手数料の減でございます。

21 款 1 項 町債 1 目 総務債。こちらは洞爺駅エレベーター整備事業債で、事業確定によりまして 670 万円を減額するものでございます。

これによりまして、議案書 17 ページの洞爺駅エレベーター整備事業における地方債の借入限度額を 9,300 万円に変更するものです。

4 目 商工債観光施設整備事業債、これは財田スポーツ交流館整備事業で、翌年度以降の修繕を再検討するため 980 万円の減額。それから財田自然観察道整備事業は、財田トイレ解体工事の中止によりまして 430 万円を減額するものでございます。

こちらも議案書 17 ページ上の土間体育館長寿命化修繕事業及び財田自然観察道整備事業における地方債の借入限度額を記載のとおり変更するものでございます。

続きまして、10 ページ、11 ページ目、歳出でございます。

1 款 1 項 1 目 議会費でございます。議会運営費は、箱根町親善訪問の中止によりまして 8 節 旅費で 189 万円の減額。13 節 自動車借上料で 28 万 8,000 円の減額でございます。

2 款 総務費 1 項 総務管理費 1 目 一般管理費でございます。一般管理費 8 節 旅費は、新型コロナウイルスによる出張の減少で 80 万円の減額。それから、9 節 交際費は町長交際費で 100 万円の減額でございます。10 節 燃料費は、燃料単価の高騰によりまして 110 万円を増額するものです。11 節 通信運搬費は、郵便物増加によりまして 150 万円を増額するものです。

続きまして、2 目 職員福利厚生費でございます。職員福利厚生事業 8 節 旅費は新型コロナ

ウイルスの影響によりまして、普通旅費で物販事業の中止で 65 万円の減額。研修旅費は一部研修が中止になったことによりまして、75 万円の減額でございます。

3 目公有財産管理費でございます。基金管理費、ふるさと納税寄附金の増によりまして 24 節特定目的基金積立金が 1,760 万 2,000 円の増額でございます。

4 目物品集中管理費物品集中管理事業でございます。10 節需用費で庁内の消耗品 179 万円。それから、印刷製本費で 55 万 2,000 円の増額でございます。

5 目電子計算管理費でございます。情報管理事業 10 節需用費印刷製本費。こちらは新総合行政システム試験用帳票で 250 万円の増額でございます。12 節システム更新委託料につきましては、北海道セキュリティークラウド回線の次期バージョンへの設定変更等によりまして、187 万 6,000 円を増額するものです。13 節使用権の許諾料につきましては、現行の総合行政システム利用期間延長、これは 6 日間ですけれども、その延長のために 45 万 6,000 円を増額するものでございます。

6 目諸費でございます。功労者表彰及び障害対象対策事業でございます。7 節報奨金は、ふるさと納税寄附金の増によりまして、返戻金の贈呈額として 1,561 万 5,000 円を増額するものです。10 節印刷製本費につきましては、ふるさと納税カタログ費用の不足によりまして 12 万円の増額。11 節役務費はふるさと納税に係るインターネット等の広告費で 83 万 2,000 円を増額。それから、クレジットカード手数料ということで 460 万円を増額するものでございます。

12 ページ、13 ページをお開きください。

13 節ホームページ使用料でふるさと納税ポータルサイト使用料の増で 160 万円の増額。財政会計管理費で財政会計管理事務事業ということで、12 節システム導入委託料で 50 万 6,000 円の減。13 節システム使用料で 11 万 3,000 円の減額。いずれもシステムが西いぶり広域連合の新財務会計システムにおいて、対応可能となったことによります減額でございます。22 節償還金につきましては、令和 2 年度分の子どものための教育・保育給付費負担金の返還金で 12 万 2,000 円の増額でございます。

8 目企画費。地域公共交通対策事業で 18 節洞爺駅エレベーター整備補助金で事業費確定によりまして 705 万 5,000 円の減額。

続きまして、3 項 1 目戸籍住民基本台帳費。戸籍住民基本台帳管理事業で 17 節備品購入でデータの暗号やデジタル書面の整正に使用する鍵を安全に保管するハードウェアシステムであります、タンパ機と呼ばれております機器の購入で 17 万 6,000 円を増額するものです。

それから、3 款民生費 1 項社会福祉費 1 目社会福祉総務費。これは生活館管理運営事業 10 節で需用費光熱水費でアイヌ民族共生拠点施設の電気料不足によりまして 20 万 2,000 円を増額するものです。

2 目高齢者福祉費。在宅高齢者支援事業で 7 節報償費で高齢者運動会の中止によりまして、25 万円を減額するものです。

3 目心身障害者特別対策費、心身障害者援助事業、これは 19 節扶助費で自立支援給付費

扶助の利用者数の増によりまして3,177万5,000円の増額でございます。

6目後期高齢者医療費、後期高齢者医療事業でございます。18節療養給付費負担金で令和2年度療養給付費負担金の精算によりまして133万2,000円を増額するものでございます。14ページ、15ページでございます。

3項医療助成費2目重度心身障害者医療助成費、重度心身障害者医療助成事業でございます。19節不重要費で重度医療費扶助の増によりまして300万円を増額するものでございます。

4項児童福祉費1目児童福祉総務費、子ども・子育て支援事業、こちらは18節で西いぶり広域連合に対する負担金で、児童手当制度改正に伴うシステム改修で19万3,000円の増。施設型給付費負担金で私立幼稚園入所者数の増によりまして、こちら当初40名だったのが45名になったということで45万1,000円を増額するものです。

5項保育所費2日常設保育所費、子育て支援センター運営事業です。子育て支援センターの会計年度任用職員1名減によりまして、1節報償費で186万円の減額。3節期末手当で146万円、4節社会保障費で33万5,000円を増額するものです。常設保育運営事業でございます。時間給職員4名の採用によりまして、1節会計年度任用職員報酬489万5,000円、8節費用弁償は通勤手当で19万4,000円、それぞれ増額です。10節需用費はコロナ対策の衛生用品の購入に係る消耗品で84万6,000円の増額。燃料費で単価高騰によりまして75万円の増。修繕料は、本町保育所給湯機器の修繕及び入江保育所の電気配電盤修繕で82万5,000円を増額。賄い材料費は児童数の増及び調味料等の値上げによりまして、69万円を増額するものです。12節委託料は、本町保育所新設を検討するための新保育所基本計画業務委託料の入札執行残で、290万円を減額するものでございます。

4款衛生費1項保健衛生費1目保健衛生管理費。虻田地区の健康福祉センター等運営事業、こちらは10節燃料費25万円、それから洞爺地区健康福祉センター運営事業で10節燃料費86万9,000円の増、こちらともに燃料単価の高騰によるものでございます。

16ページ、17ページでございます。

2目予防費、予防接種事業でございます。新型コロナウイルスワクチン3回目の個別接種・集団接種におけます体制確保に要する経費でございます。10節需用費、消耗品は用紙代等で30万円、印刷製本費代は封筒印刷等で17万8,000円、医療材料費については消毒用のエタノール、注射器等で10万円の増。11節役務費については、通信運搬費は郵便料、はがき代で109万9,000円、保険料については医療従事者保険代として21万円の増額。12節新型コロナウイルス接種委託料は、個別接種・集団接種に要します経費で635万円を増額するものです。13節自動車借上料につきましては運送用のバス、タクシー等の借り上げといたしまして42万円、それから17節備品購入費については、空気清浄機12台を購入することで120万円の増額。18節西いぶり広域連合負担金は、追加接種対応のためのシステム改修に係る負担金といたしまして62万8,000円を増額するものでございます。

2項1目環境衛生費、葬祭場管理運営事業でございます。こちら12節葬祭場管理運営委

託料については、火葬場の除雪業務の追加によりまして 55 万円を増額するものです。

4 項清掃費 1 目清掃管理費、清掃管理事業、これは 12 節廃棄物収集運搬処理業務委託料は、旧火山科学館電気室にごさいました P C B 含有機コンデンサーの処理費用といたしまして、424 万 1,000 円を増額するものでございます

6 款農林水産業費 1 項農業費 3 目農業振興費、こちらは歳入でご説明いたしました道費の補助採択によります財源補正でございませう。

4 目畜産振興費、畜産振興事業 18 節の家畜共進会・養豚共励会の事業補助金で、事業中止によります 8 万 2,000 円を減額するものです。

18 ページ、19 ページでございませう。

2 項林業費 1 目林業振興費、林業振興事業でございませう。17 節備品購入費については、大型のプリンター購入で 39 万 1,000 円を増額するものです。

7 款 1 項商工費 1 目商工振興費、商工管理事務事業でございませう。18 節異業種間の青年交流事業実行委員会補助金については、月浦ワイン&グルメ祭りの中止によりまして 80 万円を減額するものです。地域振興事業として、18 節後継者対策支援事業補助金は、婚活交流事業の中止によりまして 88 万円の減額。

続きまして、2 項観光費 1 目観光振興事業、観光振興対策事業でございませう。18 節北海道トライアスロン大会補助金で中止に伴います 500 万円の減。産業まつり補助金で 100 万円の減。夏祭り補助金 100 万円の減額。いずれも新型コロナウイルス影響のための事業中止による減額でございませう。

2 目観光施設管理費、財田地区の公園施設維持管理事業、こちら 10 節の需用費につきましては、修繕料で財田キャンプ場浄化槽内の異物の除去装置が経年劣化したことによりまして破損いたしました。その修繕のために 136 万 3,000 円を増額するものです。14 節工事請負費で 1,846 万 9,000 円を減額するものです。これは財田スポーツ交流館の屋根の改修工事及び本年度実施を見送る減、また本年度予定していた財田トイレ解体工事が同補助の採択の関係から次年度に変更になったことによる減額でございませう。洞爺地区湖畔及び公園等維持管理事業でございませうが、10 節需用費で修繕料で湖畔キャンプ中止に伴う注意看板について、国立公園のイメージ、またにぎわい創出や利用方法の情報発信を含む用に改めるために、次年度に見直すこととしたことによりまして 207 万 8,000 円を減額するものです。

続きまして、8 款土木費 1 項土木管理費 2 目の車両管理費です。公有自動車管理事業、これは 10 節で燃料費単価高騰によりまして 223 万 2,000 円を増額するものです。

20 ページ、21 ページでございませう。

2 項道路橋梁費 1 目道路橋梁維持費、虻田地区の道路橋梁保守事業で 10 節需用費、こちらは修繕料は洞爺湖温泉の遊歩道の街路灯及び配電盤の故障によります改修及び虻田地区歩道用除雪機のフレーム等の改修で 161 万 1,000 円を増額するものです。

6 項住宅建築費 1 目建築指導管理費、建築指導管理事業で 18 節耐震改修補助金は、耐震改修工事に要する工事管理経費の増によりまして、92 万 1,000 円を増額するものです。

2目住宅管理費、町営住宅管理事業でございます。10節修繕料はスチールドアの改修として当初工事請負費で予定しておりました327万3,000円でございますが、修繕による個別対応に変更したことによる科目変更、また洞爺地区公営住宅の入居に伴う小破修繕112万円の増によりまして、439万3,000円を増額するものです。14節工事請負費はスチールドアの修繕を10節修繕費に変更するために327万3,000円を減額するものです。

10款教育費1項教育総務費2目事務局費でございます。事務局管理費として24節で育英資金の基金積立金は、ふるさと納税寄附金の増によりまして494万5,000円を増額するものです。

3目諸費、教育活動支援事業18節で洞爺湖子供芸術フェスティバル補助金で、新型コロナウイルスの影響によりまして事業中止になったことに伴いまして48万円の減額。箱根町中学生親善交流事業、こちらも新型コロナウイルスの影響によって中止されたものでございます。7節報償費で90万円の減額。8節普通旅費で13万8,000円の減額。10節消耗品費で1万5,000円、食料費5万円、光熱水費1,000円の減額でございます。

4目教員住宅管理費、教員住宅維持管理事業でございます。10節修繕費で大原教員住宅の給湯器の修繕によりまして30万円を増額するものでございます。

22ページ、23ページでございます。

2項小学校1目小学校管理費、小学校管理事業でございます。こちら10節消耗品はコロナ対策用の消耗品購入で48万3,000円、燃料費については単価高騰によりまして356万2,000円、光熱水費は電気暖房の使用増加によりまして24万5,000円、修繕料は虻田小学校体育館多目的ホール照明の修繕、温泉小学校の暖房機の制御装置、消火栓バルブ、黒板の修繕等によりまして94万5,000円を増額するものです。

3項中学校費1目中学校管理費でございます。中学校管理事業でございますが、10節消耗品費、こちらは感染対策用の消耗品の購入で25万9,000円、それから燃料費につきましては燃料単価の高騰によりまして372万2,000円、光熱水費は洞爺中学校の電気暖房の使用によりまして325万2,000円、それから修繕料については、洞爺中学校のバスケットゴール等の修繕で35万円の増で計上してございます。14節工事請負費については、虻田中学校外壁の修繕工事の入札執行残によりまして58万3,000円を減額するものです。

続いて、2目教育振興費でございます。JET外国青年招致事業でございます。1節会計年度職員報酬で来日が延期されたため、9月、10月分の報酬の減額をするということで56万円を減額するものです。

続きまして、4項社会教育費1目社会教育総務費、英国青年ボランティア事業でございます。こちらも新型コロナウイルスの影響によりまして、英国青年の受入れを中止したことによりまして1節英国青年の活動報酬154万円の減額、それから普通旅費で6,000円、18節国際交流協会への交付金で19万円をそれぞれ減額するものです。

2目の社会教育奨励事業でございます。こちらにつきましても新型コロナウイルスの影響で三豊市との小学生交流事業であるフレンドリーツアーを中止したことで、7節報償費の

159万5,000円の減、それから8節普通旅費で8万1,000円、10節消耗品で1万円、食料品22万3,000円、賄い料費1万円の減、13節の施設使用料で94万8,000円、駐車場使用料で2,000円、自動車借上料で3万2,000円、それぞれ減額するものでございます。

24ページ、25ページでございます。

5項保健体育費1目体育奨励費、保健体育管理事業でございます。こちらも新型コロナウイルスの影響によりますスポーツ推進委員会研修会中止で、委員報酬14万7,000円、それから8節の費用弁償で20万8,000円、普通旅費で5万7,000円、それぞれ減額するものです。社会体育振興事業、こちらも新型コロナウイルスの影響によりまして各種大会が中止されてございます。7節の報償費で16万9,000円、10節賄い料費で4万円をそれぞれ減額するものです。

2目体育施設費、体育施設運営事業でございます。こちらもコロナウイルスの影響によりまして、プール授業中止で1節会計年度任用職員の報酬で280万円の減額。12節プール循環浄化装置保守点検業務委託料で16万2,000円、水質検査委託料で18万3,000円、学校プール屋上シート設置・撤去業務委託で28万6,000円をそれぞれ減額するものです。

12款1項1目給与費でございます。育児休業取得の増によりまして、2節一般職給で200万円の減額、それから3節住宅手当で70万円の減額。期末手当で80万円の減、勤勉手当50万円の減、4節共済組合費で300万円をそれぞれ減額するものです。

13款1項1目予備費は財源調整のために3,560万6,000円を減額するものでございます。26ページ、27ページでございます。

14款1項新型コロナウイルス感染症対策費2目経済対策費で、商工支援対策事業でございます。18節プレミアム商品券の発行事業補助金の事業費確定によります執行残といたしまして、43万5,000円の減額でございます。観光支援対策事業18節で指定管理者経営継続支援金738万円の計上でございます。新型コロナウイルス感染症が長期化する中、度重なるまん延防止重点措置、緊急事態宣言の影響によりまして、経営が逼迫する町の指定管理者に対して経営の持続を目的に、施設の管理運営に関する協定書に基づく支援を行うものでございます。

3目生活支援対策費、子育て世帯の臨時特別給付金でございます。国の新型コロナウイルス感染症対策として、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、大きく影響を受ける子育て世帯を支援する観点から、高校生までの子供がいる世帯に対して児童手当の要件によりまして一律10万円を支給するもので、このたびの補正につきましては1回目として臨時特別給付金5万円を年度内をめぐりに支給するものでございます。3節の時間外手当36万5,000円、管理職員特別勤務手当1万2,000円、10節の消耗品費5万円、印刷製本費4万8,000円、通信運搬費9万2,000円、手数料35万4,000円は、給付に伴います事務的な経費としてそれぞれ計上してございます。18節子育て世帯への臨時特別給付金で対象者数を878名として1人当たり5万円、4,390万円を計上するものでございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

6 番、五十嵐議員。

○6 番（五十嵐篤雄君） 4 点ほどお伺いをいたします。

この補正そのものの金額に異論があるわけではございませんが、その前にというような観点でちょっと伺いたいことがありましたので、質問させていただきます。

21 ページの教員住宅で 30 万円修繕費がかかっております。私は洞爺地区の教員住宅しか存じ上げませんが、教育長にちょっとお話した経緯もありまして、今、空室になっている教員住宅がかなりの数ございます。ああいう住宅は空けておくとやっぱり傷みも激しくなりますので、一般財産として転用し、一般の入りたい方多分いると思いますので、積極的に教員のために必要な部分は確保しなければ駄目だと思いますが、昨今は地域に必ずいてほしいということよりも、他の町から通われている教員の方もたくさんいらっしゃいますので、その辺は状況をいろいろ判断した中で、今ある教員住宅、下の方でも空いているのが幾つかありますので、その辺の活用を見直してほしいという願いをした経緯がございますけれども、その後、その辺進展しているかどうかについてをまず聞きたいことが 1 点。

それから、ふるさと納税で 4,737 万円の増額補正になっていますが、いろいろな先進地を見てきたり、ポータルサイト等を増やしたことの努力で、大変いい形で増額になったというふうに私も理解をしているところでございますが、増額されたとしても、そのポータルサイト料だとか返礼品とかで半分以上はなくなるので、この歳出のところで計上された中では使い道として積立金しか実は載っていないのですが、現在ではしようがないかもしれませんが、昨日私の一般質問で町長は、地域おこし協力隊の方々にも力を入れるために、このふるさと納税に関わってもらいたいというようなお話をされていましたが、それもいいのですが、もっと使い道をプランの になったら駄目ですが、子育てであるとか文化芸術のほうにも、ぜひ財源を充てていただくような努力をしていただきたい。

昨日私も質問いたしました給食センター、子供たちの数も減っていますので、思い切って給食費の無料化だとか、この財源を使ってこの辺にも積極的に取り組んだらどうかと、それとちょっと具体的なことで私の考えだけですが、ビエンナーレも中断されているということですが、経費を見直してかつての予算の半分ぐらいでできるのですよという答申もした経緯もありますし、副町長なんかはいろいろな関わり合いがあって中身のことをよく存じあげていると思いますので、継続的ではなくても、メモリアル的な開催で 1 回開催してみるという、こんなことも考えていいのではないかなというふうに思っていますので、その辺の考えを伺いたいです。

それから、新型コロナウイルス感染症対策費で、まず観光支援対策として施設が閉鎖されたことによって、指定管理の方々が大変苦勞されている 1 年だったと思ひまして、その中で 738 万円の支援金を出しているところでございます。仮にこの補正が通過した暁には、12 月中に支給されるのかどうか、この期日の確認をさせていただきたいということが 1 点。

それから、子育て世帯への4,390万円の支援878人に対してですが、このことですけれども、国会のやり取りはこの場で私お話する時間もつたいないですから言いません。皆さん報道を通じて知っていることと思いますが、この予算補正で計上されたのが12月に支給される5万円分だというふうに理解をしておりますので、その残りの部分についてどういうお考えを持っておられるのか。やっぱり周りのそういう子育て世代の方が、早く12月で全部欲しいねみたいなことも言われていますので、これは手続のことがありますから簡単なことではないと思いますけれども、いま現在どういう対応をしようと考えているのか、この4点についてお伺いをいたします。

○議長（大西 智君） 天野管理課長。

○管理課長（天野英樹君） 教員住宅の空きが結構あるので、一般財産として活用というお話でございます。それで洞爺地区に限って今お話をさせていただきますけれども、まず空きが香川で2戸、大原で1戸、下台で2戸、洞爺中学校の前とそれからホープのところに1戸建てが3戸ございますが、一つ空いています。そういう状況です。それで空いております。香川は数年もう入ってございませぬ。それから大原もおととしに先生が異動して空いている状況ということでございますので、これらが数年空いてきているので、その辺のいつまでも空けておいても当然傷みが激しくなって、結局使えなくなるということであれば、地域で使ってもらったほうがいいたろうということで考えてございますので、先生の異動も含めて、今、議員からご提案のあったことについて、しっかりと検討してまいりたいと考えているところでございます。

○議長（大西 智君） 高橋総務課長。

○総務課長（高橋謙介君） ふるさと納税の関係でございますけれども、4,700万円増額補正させていただきます。使い道については、今は子育てという部分を中心に行っていますけれども、今後そういった部分が予算のほうが増えてくるというようなことがあれば、当然いろいろな部分の使い道という形の課題解決の道にはなってくるかとは思ってございますが、どういう形になるかという部分はちょっとまだ見えない部分もありますけれども、クラウドファンディングによる財源の集め方ということもありますので、そういった部分で今後財政局とか関係課含めて、金額が増えてきた部分については使い道についてもいろいろ考えていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（大西 智君） 佐野総務部長。

○総務部長（佐野大次君） 子育て世帯の臨時特別給付金の関係でございます。最近報道等でいろいろと意見、また考え方示されている中で、昨日、岸田首相が年内の一括全面支給も可とするという発言があったところでございます。

当町においては、今回の補正予算につきましては、当初予定の5万円のみを予算措置しているところでございます。まだ国からの正式な通知がない中、予算化また年内の10万円一括給付というのは、当町においては困難な状況だと認識しております。

この後また議会の補正予算、そういった協議も踏まえて、支給時期につきましては改めて調整させていただきたいと思っております。現段階では一般質問でも答弁させていただいたとおり、当町において現金給付、そういったところを視野に入れて現段階では1回目5万円、2回目5万円、そういったところで調整をさせていただくようなことで今進めているところでございます。

○議長（大西 智君） 高橋洞爺総合支所長。

○洞爺総合支所長（高橋秀明君） 3点目の指定管理者経営継続支援金の関係でございまして。12月中に支払いできるように、早急に手続とっていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（大西 智君） 6番、五十嵐議員。

○6番（五十嵐篤雄君） 概ね大変いい答弁といたしますか、お返事をいただきましたので、ほぼ納得いたしました。一つだけ、ふるさと納税の中で使い道を検討するというところで、そういうふうにしてほしいのですが、募集をするときから、このために使うということをしつかり明示して、ふるさと納税のポータルサイトに載せてほしいという意味合いで言っていますので、集まってから使い道を考えるのではなくて、こういう使い方をしたいので、皆さんお願いしますというやり方、ちょっとその辺も含めてやってほしいという提案でした。

○議長（大西 智君） 高橋総務課長。

○総務課長（高橋謙介君） 新年度以降、募集する部分これからつくっていく形になりますので、その辺の意見踏まえて対応していきたいと思っております。

以上です。

○議長（大西 智君） ここで、休憩といたします。再開を3時15分といたします。

（午後 3時04分）

○議長（大西 智君） それでは、再開をいたします。

（午後 3時15分）

○議長（大西 智君） 休憩前に引き続き、議案第35号令和3年度虻田郡洞爺湖町一般会計補正予算についての質疑を続けます。質疑ございますか。

10番、石川議員。

○議長（大西 智君） 10番、石川議員。

○10番（石川邦子君） 事項別明細書の19ページでございまして。2項観光費2目観光施設管理費14節工事請負費、細説財田地区公園施設維持管理事業でございまして。減額補正の1,846万9,000円でございまして、このうち財田のトイレの解体に係る金額は幾らでしょうか。これに関連して道の補助金の金額2分の1と地方債の減額補正も出ております。

先ほどの副町長の説明によりますと、道の補助金採択の関係から、次年度に繰り延べをするということの説明でございました。この財田遊歩道のトイレでございまして、過去には経

済常任委員会所管事務調査、また一般質問もされていたということでございます。トイレ、あんな状態というか、ひどい状態になってからもう何年たつのでしょうか。私 11 月に遊歩道を散策に行きました。あそこはもう紅葉もとってもきれいで私もとても好きな場所の一つです。しかし、あの朽ち果てたトイレは余りにもひどすぎます。私が 11 月に見たときには、柱は宙づり状態で細いロープで 2 本引いていました。立入禁止とは書いておりましたけれども、トラロープも引いていましたけれども、人は近くまでいける状態になっておりますし、何せ危険きわまりない状態で、本当に観光地として恥ずかしいなと思いました。そのときにあの場所を写真を撮っている方がいたのです。これはもう SNS にアップされるのかと、ちょっと洞爺観光マイナスイメージだなと思いました。

次年度に補助金の関係で繰り延べをするということでございますが、来年はこの補助金必ずつくのでしょうか。来年の観光シーズンに間に合いますか。現時点で結構ですので、その予定について伺いをしたいと思います。

次にもう 1 点でございますが、同じ項目のところでございます。洞爺地区湖畔及び公園等維持管理事業看板設置費修繕料の減額補正でございます。これにつきましては、今年度は減額補正をして次年度に向けて改めて検討するというところでございますけれども、これは全て考え直して金額も変わって、予算を金額も変更する予定なののでしょうか。これも来年の観光シーズンに間に合いますか。現時点で結構ですので、これについてもちょっと予定の考えを伺いたいと思います。

以上、2 点についてお願いいたします。

○議長（大西 智君） 兼村庶務課長。

○庶務課長（兼村憲三君） まず、財田トイレの金額は幾らかということでございますけれども、金額は 805 万 2,000 円でございます。

それから、トイレの補助金についてのご質問でございます。財田自然公園の観察道の整備事業ということで、今年度から 3 か年、3 年間の整備事業として道のほうには申請しているところでございます。補助金の申請につきましては、これは毎年提出することとなっておりますが、令和 4 年度事業の本要望に関してはこれからということになってございます。ですから、現時点におきましては必ずつくということの名言はされておられませんけれども、工事費の設計費は今年補助金がついて、既に実施をしているところでございます。次年度はその工事を進めることで現在調整しているというところでございます。

また、このシーズンに間に合うのかというご質問でございますけれども、実はこの補助金に関しましては、交付決定が恐らく 7 月以降になるかというふうに思っているところでございます。その以前には事業ができないというようなところでございますので、そこは道のほうと確認をとりながら進めていきたいというふうに思っているところでございます。

それから、4 点目の看板に関してでございます。金額が変更になるのかというようなご質問でございますけれども、まず看板に関しまして、こちらは財田地区の湖畔キャンプの閉鎖に伴っての禁止のみの明示という形で実は考えておりましたけれども、やはりこれは訪れた

方に対しまして禁止のみの情報とした場合は、やはり景観であったり国立公園のイメージが損なわれるというようなことも考えまして、改めてこちらに関しましては、浮見堂周辺から芸術館にかけましては、実はこちらはやはり観光振興の観点から、このエリアに関しましてはやはり文化、アート拠点のフィールドエリアとして実は位置づけられていたところでもございます。洞爺地区の財産でもありますこの芸術に対する思い、また方向性を考えたときには、やはり単にキャンプができないという場所の示し方ではなくて、やはり洞爺湖を背景に設置されているぐるっと彫刻公園、またビエンナーレ、そして砂澤ビッキ作品などゆっく鑑賞ができるというような芸術文化エリアを観光ゾーンとして、改めて周知にしっかり力を入れていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（大西 智君） 10 番、石川議員。

○10 番（石川邦子君） トイレにつきましてはできれば、上屋というか上のほうだけでも解体をして、あのままではちょっと余りにも見栄えが悪いと思いますので、上だけでも撤去できればと思います。

あと看板につきましても、今、お聞きいたしました。大変いい構想をお持ちだと思います。ぜひ早急にてできればシーズン前に設置できるよう、努力をしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（大西 智君） ほかに質疑はございますか。

5 番、立野議員。

○5 番（立野広志君） 最初に保育所の件で 15 ページ、新保育所基本計画業務委託料のこれは入札執行残ということで出ていますが、これは基本計画というのはいつまでの策定を予定しているのか、ちょっと伺いたいと思います。

基本計画を委託するに当たって、当然町側から基本計画策定に当たっての基本的なデータ、考え方が示されていると思うのです。その辺は以前に議会側に公表いただいた中身だけではなくて、それにもさらに詳しい内容になっているのだと思うのですが、それらについての説明が私どもも受けていないような気がするのです、所管の委員会でしたのかどうか分かりませんが、この基本計画業務委託に当たっての町側としての考え方、その計画策定の素となる考え方について、いずれかの場で明確にさせていただければと。

それから、この計画はいつまでに策定されて、いつそれが示されるのかということも、当然その前にいろいろと議論、また意見を求めたりする機会があるのかもしれませんが、それらの日程等について分かっているならば、示していただきたいと思います。

それから、21 ページの先ほど質問があった点でちょっとダブってはいないと思うのですが、21 ページの教員住宅の維持管理の関係なのですが、今、説明いただいているところは、大原の教員住宅の給湯器というふうに言われました。教員住宅がどのぐらい空きがあるのかという話は関連で質問がありましたけれども、この給湯器というのは今入所している方、使っている方の住宅の給湯器のことなのか、もしくはどこか民間に貸している住宅の

ことをいっているのか、ちょっとその辺はよく分からないので説明いただきたいのと、次、27 ページ、子育て世帯への臨時特別給付金の事業について、ちょっと伺いますが、そもそもこれは今の内閣が子育て支援ということで示している中身でいろいろ議論はあります。当然ながら私も現金で一括で支給されれば一番いいなと思ってはいるのですが、この支給の当初の説明の中で見ますと、中学生以下はプッシュ型で特に申請を必要としないと、児童手当等の関係で申請なしに年内に支給すると、ところがでは高校生まではいつ支給されるのかと、先ほど町のほうでは対象が 878 人と言われました。これは 18 歳以下の年齢全体の数を言っているのかなと思うのですが、そうするとちょっと国からの予算でいうと、国のほうでは取りあえず年内に中学生までというふうに言っているのですが、この 878 人、例えば町が説明しているのは高校生ままでなのかもしれませんが、それも総額で入っている金額なのか。

それから、もう一つ先ほど答弁ありましたけれども、やはり早急に 10 万円支給するならするでなくてはいけないだろうと、議会での補正が必要だ、そしてそれに基づいて執行しなければならないということであれば、そういった何か今政府の動きもありますけれども、この先日にちはないけれども、例えば年内に改めて臨時で議会を開催要求するのか、あるいは専決にするのか分かりませんが、そういった手法でもってやはり早急に支給がされるような方向で取り組まれるべきではないかと思うのですが、その辺の考えについても伺いたしたいと思います。

○議長（大西 智君） 天野管理課長。

○管理課長（天野英樹君） 初めに、新あぶた保育所の基本計画策定業務委託料の減に係るものでございますけれども、これについては業者に基本的なデータということでも示しているのが、虻田小学校からそこが 35 人学級の実現が国のほうで決定されたことに伴い、当初教育委員会で計画していたあぶた保育所、虻田小学校内の空き教室に行くことを断念したということで、新しい場所を選定、それから、それに当たって新あぶた保育所の建設に係る基本構想ということで、委員会でつくったものを全員協議会のときに皆様にお示ししたと思うのですが、まずそれを基本的に出しています。そのものを業者に出しまして、それに合わせて今のあそこの場所について、3 案程度場所についてまず案を出してくださいということで、当然坂ですから効率的なことも考えて、3 案程度を提案いただくことであるとか、それから、その後現場の保育士の皆さんにどういう保育所でないと駄目なのか、基本的なことをキャッチボールしながら、私どもも考えあります。例えば、冬場のときに雪は屋根のどちらに落とすのかとか、道路の冬の除雪に支障がないのかだとか、保育士から出ている意見として、一端を申せば、例えば遊戯室と調理場を隣り合わせにしないこと、これは遊戯室でお昼寝をするので食器を洗う音がうるさいので隣にしないことだとか、細かいところをその後いろいろなことを示して、実際に保育に支障がないような建物となるようなことを、当初は協議委員会でつくったものを提示しているのですが、その後は現場から声を吸い上げて、それをまた業者のほうに提示して、案を出してくれということをやっております。ということで時間としてはちょっとかかるのですが、丁寧にやっていかないと、せっかく造ったときに最後に現

場の保育士から、使い勝手が悪いということになっては困りますので、そんなことで今やっている。それで、この業務委託については来年2月28日の末までということにさせていただきますので、そこまでに案が出てくるということに今なっているところでございます。

それから、教員住宅の給湯器の修繕でございますけれども、これは現在大原の2戸のうち1戸入ってございますので、当然入っている方のところを直すと、入っていないところで給湯器つけても入る予定はございませんので、今入っている方のところの給湯器を修繕したというところでございます。なお、その方は洞爺中学校の教員でございます。

以上でございます。

○議長（大西 智君） 高橋健康福祉課長。

○健康福祉課長（高橋憲史君） 先ほどの27ページ子育て世帯への臨時特別給付金事業に係るご質問でございます。

まず、総額の中に高校生に関わる部分算入されているのかといった部分でございますけれども、この878名の中におきまして、高校生の部分につきましては、内訳といたしました町で今のところ167名ほどの方が該当になるものと見込んだ中で、高校生の部分につきましても分かり得る範囲の中で見込んでいるところでございます。

プッシュ型の中学生の部分の通知につきましては、一般質問の中でも8日に発送いたしましたして、今1回目、12月末、28日に支給予定ということで報告はさせていただいているところでございますけれども、これ以外の高校生の部分ということでしたけれども、こちらにつきましても既に過日対象と見込まれる方々につきましては、通知済みとなっております。ですので、申請が年内に届きまして支給が間に合う形での申請がなされた場合につきましては、1回目の給付でも対応ができるものと考えてございます。ただ、こちらに間に合わないものについては、順次その次から支給に回るものという形で、プッシュ型でない部分につきましても既に対応しているということで、ご理解をいただきたいというふうに思っております。

○議長（大西 智君） 佐野総務部長。

○総務部長（佐野大次君） 支給時期の関係でございます。先ほども申し上げましたとおり、まだ昨日の首相の発表があっただけということで、当町には正式な通知がない状況でございます。まず予算も専決ということには当町の場合まいりませんので、補正予算措置をして支給という形になろうかと思っております。

実際に年内の支給は難しいのではないかとこのところで、この後国の正式な通知も含めて議会の補正議決また支給決定、これができるだけ速やかに日程設定をした場合に、いつ支給できるのかというのは当然支給の日を早急に設定できるような調整を図ってまいることとしたいと思っておりますけれども、現段階ではそのような状況となっているところでございます。

また、この後住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金、こういったところの予算措置も控えているというところもございまして、現段階ではそういった支給も併せて補正予算措置

というのをこの後議会とも調整をしながら、進めさせていただきたいと考えているところでございます。

○議長（大西 智君） 5番、立野議員。

○5番（立野広志君） 最初のほうの質問をしました新保育所基本計画の業務委託なのですが、以前に全員協議会で教育委員会としての考えが説明されましたけれども、それにさらにいろいろな状況を踏まえて、建物の形状であるとかそういったもの、あるいは建物内の部屋の配置であるとか、そういったものも何か示しているようでありますから、本当なら基本計画策定の委託をする前に、町としてはこういう三つの、例えば案を検討して、これについての計画策定を提示していただくように考えているのだというようなところまで本当は私は説明いただきたいなと思っていただけです。

特にこういうものというのは、業務委託して成果表が出たときに、3案ぐらい出るのかもしれないけれども、大体その中からどんどん絞り込んでいくというような格好もありまして、教育委員会側が最初に示した中身そのものが実際にやっぱり利用する方々や町民の方々の意向として満足できるものなのかどうかということも含めて、やっぱり議会で一度さらしていただきながら出していただきたいものだなと実は思っていたわけです。それで2月末までにこの委託が成果表として発表されるということになりますので、そうするとその後のスケジュールとしては、例えば新年度に向かって今度は実際の実施計画なり何か設計図を絞り込んで策定する。建てるのはさらに1年後ということになるのか、ちょっとその辺の予定も含めて、改めて分かっている範囲でいいですが説明いただきたいなと思います。

それから、教員住宅と一般の町営住宅の違いというのは、ちょっと私今すぐ比較できないのですが、教員住宅の場合は福利厚生として教員に住宅を提供するということになっていますから、当然給湯器もその福利厚生の一部なのだろうと思うのですがけれども、通常、町営住宅などは最近あったことですがけれども、給湯器が壊れると入居者が負担をして修理しなければならないと、こんなふうになっているのです。ところが教員住宅の場合は、教員の福利厚生という立場から、逆に言えばそういった負担もなく入居ができるのかなということで、ちょっとその辺大分違うものだなと思いつながら私質問したわけなのですが、この辺はやっぱり一般の住宅も含めて検討すべきことかなと思うのです。

いずれにしても、入居している教員の方の住宅の給湯器であると、これはずっとそういう形で今までやってきたことだと思うのですが、その辺改めて確認させていただきます。

それから、最後のほう、子育て世帯ですけれども、これだけ確認させてください。

国は年内支給ということで中学生以下まで、これは年内支給できますよと言って予算措置していたと思うのですが、そうすると、今、町が提案しているのは高校生までの分を含めて、これも全て国のほうの負担として歳入された部分を支給すると、金額的にいうと同じ金額だからそうなのかなと思うのですが、そういうことでもう既に国のほうでも予定しているということなのではないでしょうか。

○議長（大西 智君） 皆見教育長。

○教育長（皆見 亨君） 私のほうから、新あぶた保育所の関係についてご答弁させていただきます。

まず、今のスケジュールでございますけれども、今年度、令和3年度で基本計画、これはしっかりとした計画をつくるべく、多少時間はかかっておりますけれども、令和4年2月までに設計していただくように、計画していただくように業者をお願いをしておりますけれども、もちろん各保育所のこれは洞爺、それから温泉を含む四つの保育所のほう全てから、今回の新あぶた保育所に関わる意見等について報告をいただいておりますので、これは十分現場の声を聞いた形での施設にすべく、いま現在進めているところでございます。

今後の計画でございますけれども、この基本計画ができた後、令和4年度に基本設計、令和5年度に実施設計、そして令和6年度及び7年度に工事、令和8年度に運用開始というような当初の計画ではございますけれども、何分入江保育所につきましても老朽化が激しく、雨漏りもしているような状況でございます。また、本町保育所につきましては、いつ津波災害が起こるか大変心配な地域でもございます。私どもとしましては、1年でも早く安心・安全なところで保育所運営を行いたいというふうに思っておりますことから、極力少しでも早く進めるように今も考えているところでございます。

そういった意味では、もちろん議論する時間も大変必要になってくるというふうに思いますので、この後の予定ではございますけれども、まずは建設予定地である自治会に説明をさせていただきます。これはある程度案がまとまった時点という形になりますけれども、ここでは、やはり交通事故、交通安全かなりご心配をされている地域でございますので、十分自治会とは協議をさせていただきます、その後今保育所に入所されている保護者の皆様、そして町民の皆様にこういった案をいかがでしょうかということでご提案をさせていただきます。これにつきましては、それぞれの進捗状況等にもよりますけれども、ある程度私どものほうで時間を見定めた上で調整をしながら、報告、それから相談をさせていただきたいというふうに思っております。もちろんその中で議員のほうにも議会のほうにもその都度報告をさせていただきます、また貴重なご意見等いただきたく思っているところでございます。

とにかく、私どもとしては保育所の子供たちにやはりすばらしい保育環境のある施設を1日でも早く提供できるように進めてまいりたいというふうに思いますので、議員各位のご理解、ご協力のほどもよろしくお願い申し上げたいと思います。

○議長（大西 智君） 天野管理課長。

○管理課長（天野英樹君） 教員住宅の備品といいますか、交換等、その他の件でございますけれども、公営住宅のほうについては申し訳ございません、私承知してございませんので、比較ということも言えないのですが、ただ、教員住宅につきましては、教員がその地域にしっかり入って溶けこんで、私どもの子供たちの教育に専念してもらおうということで、昔からこういう形でこういうものは一定程度、町側が工事しますということで長年来ていますので、今これを見直すとか見直さないとかという、なかなかそういうこともできませんので、教育委員会としてもなるべく丁寧に使っていただいて、長持ちするようにお願いをしたいな

とそんな気持ちでいるところでございます。

○議長（大西 智君） 高橋健康福祉課長。

○健康福祉課長（高橋憲史君） 子育て世帯への臨時特別給付事業の関係で、高校生に係る部分でございます。こちらにつきましては、国からの通知におきましては、高校生も含めまして速やかにというようなことから、給付については制限は設けられていないところでございますけれども、ただ、財源につきましては、中学生の部分につきましては国において先行して確定をさせた上で、高校生等の部分につきましては、2次的にこの後また正式に通知が来るということで伺っているところでございます。

以上です。

○議長（大西 智君） ほかに質疑はございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第 35 号令和 3 年度虻田郡洞爺湖町一般会計補正予算についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 35 号令和 3 年度虻田郡洞爺湖町一般会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

◎議案第 36 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第 14、議案第 36 号令和 3 年度虻田郡洞爺湖町国民健康保険特別会計補正予算についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書 18 ページを御覧いただきたいと思います。

議案第 36 号令和 3 年度虻田郡洞爺湖町国民健康保険特別会計補正予算（第 2 号）でございます。

令和 3 年度虻田郡洞爺湖町国民健康保険特別会計補正予算（第 2 号）は、次に定めるところによる。

第 1 条、歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳出予算の金額は、第 1 表歳出予算補正によるものでございます。

以下、事項別明細により説明をさせていただきたいと思いますので、事項別明細の3ページ、4ページ目をお開きください。

歳出でございます。

9款諸支出金1項償還金及び還付加算金3目償還金で、52万4,000円の増額でございます。令和2年度国民健康保険給付費等交付金の精算に伴う返還金でございます。

10款1項1目予備費で、52万4,000円を減額するものでございます。

以上、ご提案申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第36号令和3年度虻田郡洞爺湖町国民健康保険特別会計補正予算についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第36号令和3年度虻田郡洞爺湖町国民健康保険特別会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

◎議案第37号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第15、議案第37号令和3年度虻田郡洞爺湖町公共下水道事業特別会計補正予算についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

武川副町長。

○副町長（武川正人君） 議案書20ページを御覧いただきたいと思います。

議案第37号令和3年度虻田郡洞爺湖町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）でございます。

令和3年度虻田郡洞爺湖町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）は、次に定めるところによる。

第1条、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ2,155万8,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ9億3,183万円とするものでございます。

第2条の地方債の補正につきましては、事項別明細の中でご説明をいたします。

以下、事項別明細によりご説明をさせていただきたいと思いますので、事項別明細の 4 ページ、5 ページ目をお開きください。

まず、歳入でございます。

3 款国庫支出金 1 項国庫補助金 1 目公共下水道費国庫補助金、公共下水道費補助金 975 万 8,000 円の減額でございます。これは汚泥処理設備工事業の事業費確定及び公共下水道事業計画変更業務の入札の執行残でございます。

8 款 1 項町債 1 目下水道債、公共下水道事業債 1,180 万円の減額でございます。汚泥処理設備工事業の事業費確定、公共下水道事業計画変更業務の入札執行による執行残で、下水道建設補助事業で 740 万円の減。道道洞爺登別線マンホール高さ調整及び公共ます設置工事入札による執行残で、下水道建設単独事業で 440 万円の減でございます。

これによりまして、議案書の 23 ページの「第 2 表地方債補正」で変更前の限度額を 1 億 7,310 万円から 1,180 万円を減額し、限度額を 1 億 6,130 万円に変更するものでございます。

次に、事項別明細の 6 ページ、7 ページ目をお開きください。

歳出でございます。

1 款公共下水道費 2 項下水道建設費 1 目下水道建設費、下水道建設補助事業で 1,788 万 5,000 円の減額です。12 節処理場設備工事委託で 1,629 万円の減額です。これは汚泥処理設備工事業の事業確定によるものです。事業計画変更図書の作成業務の委託料として 140 万円の減、これは入札執行残でございます。17 節備品購入費で 19 万 5,000 円の減額は、可動型の発電機購入の入札執行残でございます。下水道単独事業といたしまして 440 万 5,000 円の減額でございます。12 節実施設計業務委託で 152 万 3,000 円の減、道道洞爺湖登別線マンホール高さ調整工事の実実施設計業務の執行残でございます。14 節の工事費 288 万 2,000 円の減額は、道道洞爺湖登別線のマンホール高さ調整及び公共ます設置工事入札の執行残でございます。

最後に 3 款 1 項 1 目予備費で 73 万 2,000 円の増額でございます。

以上、ご提案を申し上げます。

○議長（大西 智君） 提案理由の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 討論なしと認めます。

これから、議案第 37 号令和 3 年度虻田郡洞爺湖町公共下水道事業特別会計補正予算についてを採決いたします。

お諮りいたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第 37 号令和 3 年度虻田郡洞爺湖町公共下水道事業特別会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

◎意見書案第 12 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第 16、意見書案第 12 号入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書（案）についてを議題といたします。

提出者の説明を求めます。

8 番、今野議員。

○8 番（今野幸子君） 意見書案第 12 号。

令和 3 年 12 月 10 日、洞爺湖町議会議長、大西智様。

提出議員、今野幸子。提出議員、立野広志。

入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書（案）について。

会議規則第 9 条第 2 項の規定により、上記議案を別紙のとおり提案します。

記。

提出先、内閣総理大臣、厚生労働大臣。

入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書（案）

菅前首相は、本年 8 月 2 日に開催された新型コロナウイルス感染症の医療提供体制に関する閣僚会議において、重症患者や重症化リスクの高い方以外は自宅療養での療養を基本とする方針を発表した。

8 月 3 日には、重症患者や中等症以下の患者の中で特に重症化リスクの高い者に入院治療を重点化し、入院の必要がある患者以外は自宅療養を基本とする考え方をとることも可能である旨、各都道府県・保健所設置市・特別区宛てに通知した。

これに対し、批判の声もあったことから、8 月 5 日には同通知の説明資料に「入院は重症患者、中等症患者で酸素投与が必要な者、投与が必要でなくても重症化リスクがある者に重点化」などの修正を行ったが、入院治療の対象者を重点化し、それ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする方針は撤回していない。自宅療養中の患者が亡くなる事例も生じており、患者の症状は常に急変する可能性があり、その場合でも命を救う救命処置を迅速に行うなどの対応が必要であることから、政府は入院治療を原則とした上で、宿泊療養施設など医療スタッフが常駐する環境の整備に尽力し、全ての患者の命を救おうとする姿勢を国民に対して示す必要がある。

よって、政府においては、入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基

本とする対応を可能とする方針を撤回するよう強く要望する。

以上、地方自治法第 99 条の規定により、意見書を提出します。

令和 3 年 12 月 10 日、北海道虻田郡洞爺湖町議会議長、大西智。

○議長（大西 智君） 説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「あり」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） まず初めに、反対者の討論を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） なければ、次に、原案に賛成者の発言を許します。

5 番、立野議員。

○5 番（立野広志君） 私は意見書案第 12 号の入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書（案）について、賛成の立場で発言をいたします。

今、意見書の本文にも表れておりましたが、政府が示したこの閣議会議での決定は、いまだ生きております。

政府は 11 月 12 日には新型コロナウイルス感染症対策本部、本部長は岸田首相ですが、これを首相官邸で開いて、第 6 波に向けた対策の全体像を決定いたしました。病床削減を進める地域医療構想に固執したまま、今年の夏のピーク時と比べて 3 割増となる 3 万 7,000 人分の病床を月内に構築すると表明しておりますけれども、この都道府県の推計では、この感染再拡大の自宅、宿泊療養者を約 23 万人と想定した体制強化などの対策を打ち出しましたが、具体性に乏しく感染防止策も不十分な内容となっています。

そうした中で、感染拡大で医療が逼迫する最悪の事態、既にもう経験したわけですが、さらにまた至った場合、コロナ以外の通常医療を制限すると明記しています。多くの在宅者を招いた、原則、自宅療養の方針そのものは撤回しておりません。同じことをまた繰り返す可能性があるだけに、この原則自宅療養という閣議会議を撤回して、必要な治療が受けられるようにすべきだと考えています。そういう意味で、今回提案されております意見書（案）については賛成したいと思います。

○議長（大西 智君） これで討論を終了いたします。

これから、意見書案第 12 号入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書（案）についてを採決いたします。

この採決は、起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

(賛成者起立)

○議長（大西 智君） 起立少数です。

したがって、意見書案第 12 号入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書（案）については、否決されました。

◎意見書案第 13 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 続きまして、日程第 17、意見書案第 13 号石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書（案）についてを議題といたします。

提出者の説明を求めます。

5 番、立野議員。

○5 番（立野広志君） それでは、意見書（案）を読み上げて提案させていただきます。

意見書案第 13 号。

令和 3 年 12 月 10 日、洞爺湖町議会議長、大西智様。

提出議員、立野広志。提出議員、今野幸子。

石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書（案）について。

会議規則第 9 条第 2 項の規定により、上記議案を別紙のとおり提出します。

記。

提出先、内閣総理大臣、経済産業大臣、環境大臣。

本文を読み上げます。

石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書（案）

2030 年度の我が国の温室効果ガス削減目標について、政府はこれまで 2013 年度から 26%削減することを目標としてきたが、本年 4 月、新たに 46%削減することを目標に掲げた。

その実現に向けたエネルギー政策の進むべき道筋を示す「第 6 次エネルギー基本計画」では、2030 年度の電源構成について、石炭火力発電の比率は 19%と明記した。しかし、この計画で言及しているように、石炭火力は化石燃料の中でも CO₂排出量が多いことから、たとえ熱量当たりの単価が低廉で安定的な供給が見込まれるとしても、その活用は昨年 10 月の「2050 年カーボンニュートラル」宣言と矛盾するものであると考えられる。

また、国連は先進国に 2030 年までに石炭火力発電を段階的に廃止することを求めており、第 26 回国連気候変動枠組み条約締結会議（COP26）では、石炭火力を廃止することなどを盛り込んだ声明に 46 か国が賛同した。世界的にも石炭火力発電を削減する取組が進められており、我が国も石炭火力発電の活用方針を改めることが求められている。

よって、政府においては、温室効果ガス排出量の削減をより一層進めるため、石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明するよう強く要望する。

以上、地方自治法第 99 条の規定により、意見書を提出します。

令和3年12月10日、北海道虻田郡洞爺湖町議会議長、大西智。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（大西 智君） 説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「あり」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） なければ、次に、原案に賛成者の発言を許します。

8番、今野議員。

○8番（今野幸子君） 意見書案第13号石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書（案）に賛成の立場で討論させていただきます。

石炭火発のCO₂排出係数は液化天然ガスとの比較でも2倍はあり、日本の温室効果ガス排出の22%、石炭火力発電によるCO₂の排出が占められています。これは18年度の実績ベースによるものです。

このように、石炭火力によるCO₂の排出量が極端に多いことから、石炭火力発電が気候危機打開の鍵となるのは当然です。しかし、日本の石炭火発は19年度実績で32%を占め、その上9基もの大型施設を建設中です。火発の新規建設であれば、30年ほどの稼働が可能となります。政府の言う「2050実質ゼロ」の50年になってもこの石炭火発は大量のCO₂を排出し続けることとなります。2050年にCO₂排出実質ゼロの目標を必ず実現させるには、世界の多くの国々が目指すように、日本政府においてもこの温室効果ガス排出量の削減をより一層進める必要があります。

このような理由から、石炭火発による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書（案）に賛成します。

○議長（大西 智君） これで討論を終了いたします。

これから、意見書案第13号石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書（案）についてを採決いたします。

この採決は、起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（大西 智君） 起立少数です。

したがって、意見書案第13号石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書（案）については、否決されました。

◎意見書案第 14 号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（大西 智君） 日程第 18、意見書案第 14 号後期高齢者の年収 200 万円以上の医療費窓口負担 2 割化を中止し、「原則 1 割」の継続を求める意見書（案）についてを議題といたします。

提出者の説明を求めます。

5 番、立野議員。

○5 番（立野広志君） それでは、意見書（案）を読み上げて提案させていただきます。

意見書案第 14 号。

令和 3 年 12 月 10 日、洞爺湖町議会議長、大西智様。

提出議員、立野広志。提出議員、今野幸子。

後期高齢者の年収 200 万円以上の医療費窓口負担 2 割化を中止し、「原則 1 割」の継続を求める意見書（案）について。

会議規則第 9 条第 2 項の規定により、上記議案を別紙のとおり提出します。

記。

提出先、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、財務大臣、総務大臣。

本文を読み上げます。

後期高齢者の年収 200 万円以上の医療費窓口負担 2 割化を中止し、「原則 1 割」の継続を求める意見書（案）

75 歳以上の高齢者の医療費窓口負担を、年収 200 万円以上（年金のみの単身世帯）の約 370 万人を対象に、現行の 1 割から 2 割に引き上げる医療制度改革法が成立し、2022 年度後半から実施されることになりました。日本高齢期運動連絡会が 3 月に公表した調査によれば、2 割負担になったら「通院回数を減らす」「受診料を減らす」「薬の飲み方を調整する」と回答者の約 3 割が答えています。

日本医師会も「後期高齢者は一人当たり医療費が高いので、年収に対する患者一部負担の割合は既に十分に高い。患者一部負担割合の引き上げによって受診控えのおそれがある。また、たとえ受診したとしても患者負担が重荷となり、必要な医療を遠慮なされる懸念がある」と指摘しています。

新型コロナウイルスの感染拡大のために、既に受診抑制がされている下で、医療費の窓口負担が 2 割になることで経済的な理由から、さらなる受診抑制が広がる懸念があります。受診抑制によって後期高齢者の健康状態が悪化するなどが起きないように、国においては高齢者に負担増を押しつける計画を撤回し、医療費窓口負担の「原則 1 割」の継続を求めます。

以上、地方自治法第 99 条の規定により、意見書を提出します。

令和 3 年 12 月 10 日、北海道虻田郡洞爺湖町議会議長、大西智。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（大西 智君） 説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「あり」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（大西 智君） 次に、原案に賛成者の発言を許します。

8番、今野議員。

○8番（今野幸子君） 意見書案第14号後期高齢者の年収200万円以上の医療費窓口負担2割化を中止し、「原則1割」の継続を求める意見書（案）に、賛成の立場で討論させていただきます。

高齢者は若者と比べ、医療の受診回数が格段に多くなることは誰もが理解できるところです。高齢者一人当たりの医療費は年齢とともに上昇し、それとは逆に年収は低下します。そのため、医療費一部負担が年収に占める割合は上昇し、現状の1割負担でもかなり重いものとなっています。また、現在、在宅医療の占める割合も年齢とともに上昇しているところから考えても、後期高齢者が過剰な受診をしているとは言えません。

後期高齢者医療制度は原則1割負担で、高齢者が心配なく医療を受けられる、そういったものにするという最初の説明がありました。また、現役世代が払う保険料の負担上昇を抑える目的があると説明されていました。しかし、既にもう負担は3割負担になっている人もいます。また、一部2割に引き上げることで、現役時代の負担額が減少すると、その金額は平均年収その収入世帯の年収で約年350円弱1か月にしたら約30円ほどです。初任給などの収入の少ない人はそれ以下となります。負担の軽減は感じられるものではありません。しかし、負担増となる高齢者にとっては、症状悪化や重症化を招き、命に関わることは否定できません。また、重症化により逆に医療費を増やすことにもなりかねません。

命を軽んじるような後期高齢者の年収200万円以上の医療窓口負担の2割化を中止し、「原則1割」の継続を求める意見書（案）に賛成します。

○議長（大西 智君） これで討論を終了します。

これから、意見書案第14号後期高齢者の年収200万円以上の医療費窓口負担2割化を中止し、「原則1割」の継続を求める意見書（案）についてを採決いたします。

この採決は、起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○議長（大西 智君） 起立少数です。

したがって、意見書案第14号後期高齢者の年収200万円以上の医療費窓口負担2割化を中止し、「原則1割」の継続を求める意見書（案）については、否決されました。

◎散会の宣告

○議長（大西 智君） 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

明日から来年3月の定例日の前日までは休会となっておりますので、ご承知願います。

本日は、これをもって散会いたします。

（午後 4時19分）

会議の経過は以上のとおり相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

議 長

署 名 議 員

署 名 議 員